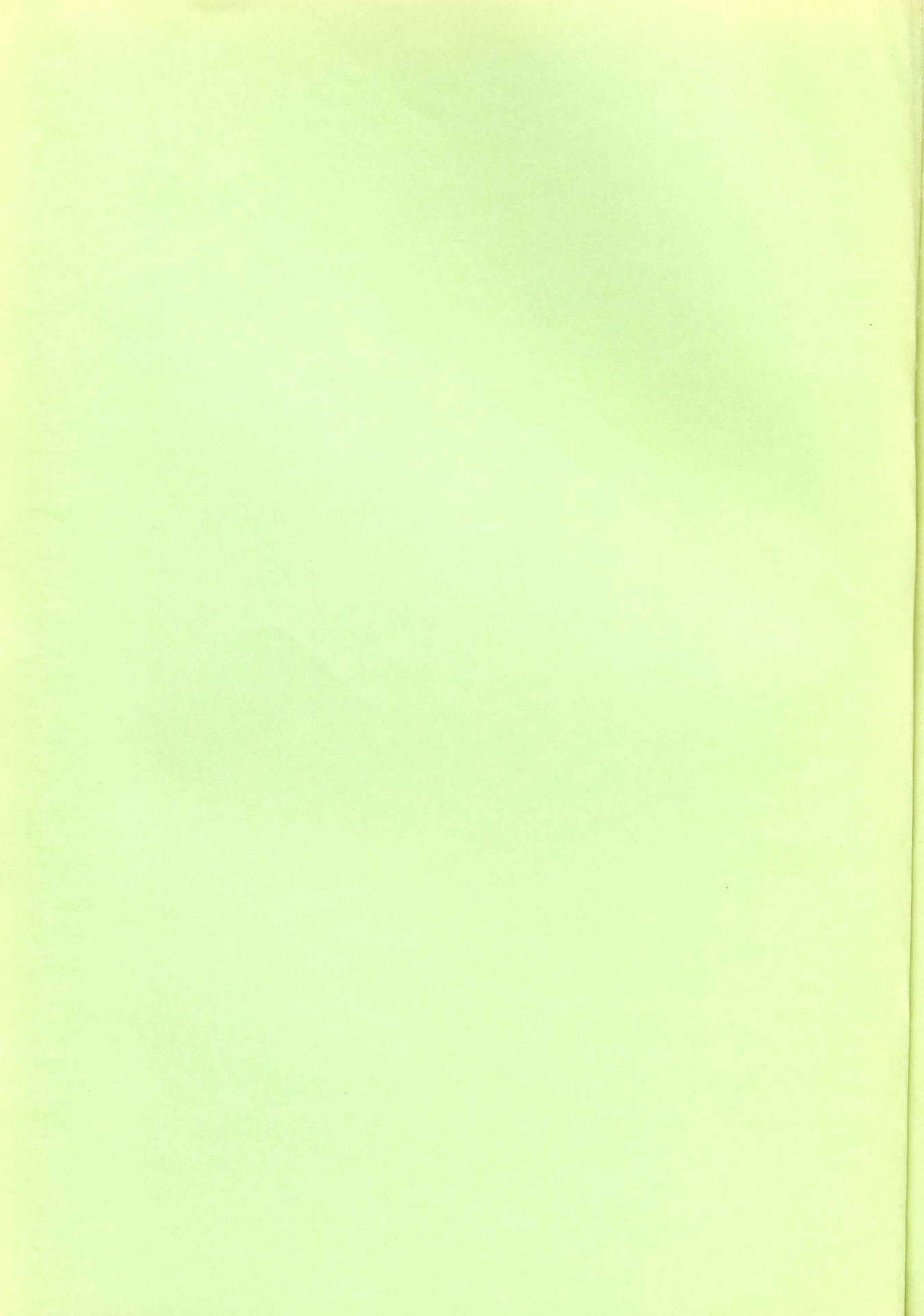


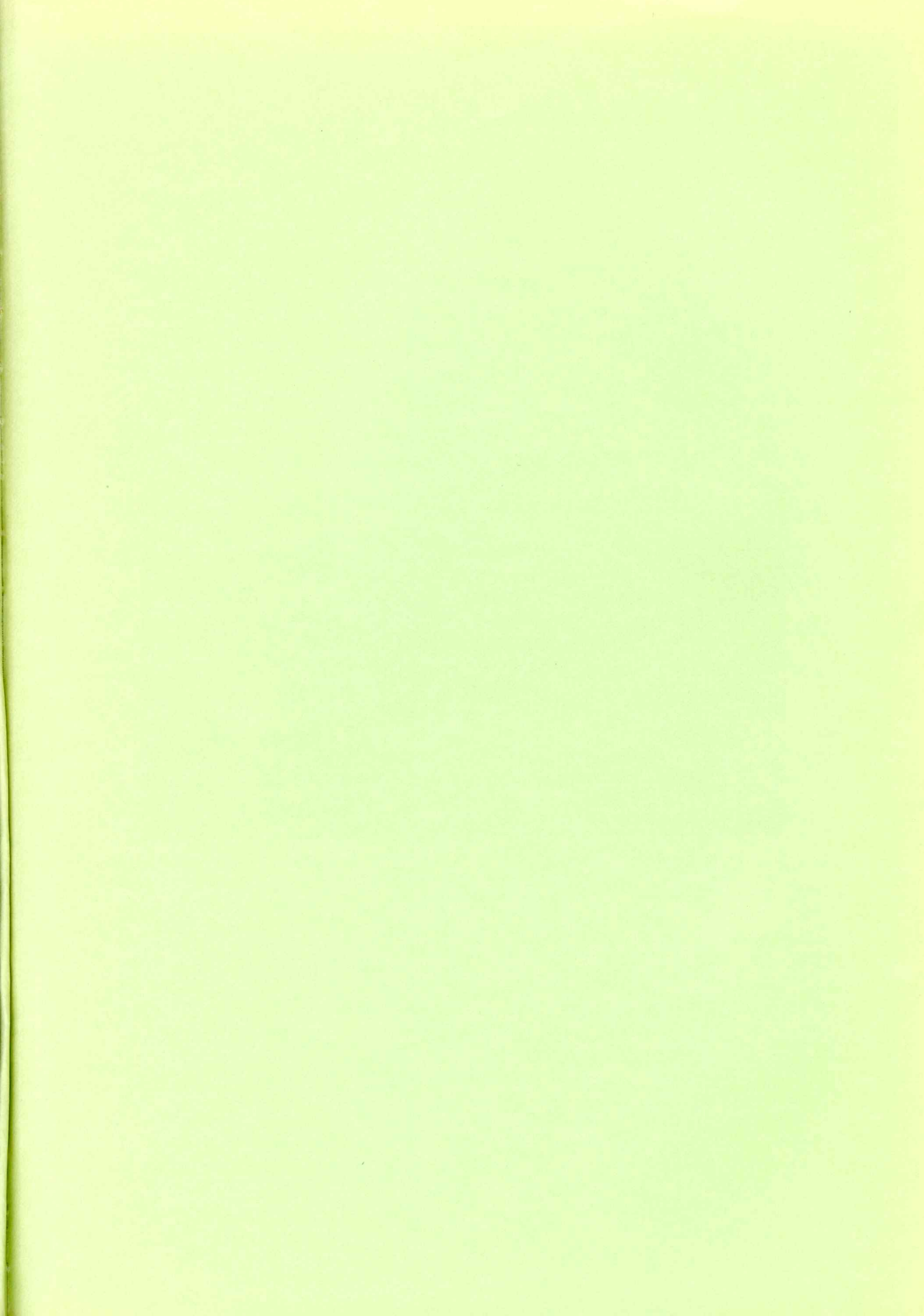
みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

昭和62年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART







千葉県立美術館全景

目 次

ご あ い さ つ	1
沿革・運営方針	2
管 理 運 営	3
機 構	4
予 算	6
収 蔵 資 料	7
施 設	10
事 業	14
常 設 展	15
特 別 展	21
企 画 展	26
県 芸 術 祭	30
団 体 展	32
教育・普及	36
事 業 一 覧	46
利 用 状 況	48
作品貸出一覧	49
刊行物一覧	50
日 誌 抄	51
関係法令等	52
昭和63年度展覧会等	54
利 用 案 内	55

ごあいさつ

昭和62年度における千葉県立美術館運営の実態を年報としてまとめましたので、お届けします。

本館は、昭和49年の開館以来の方針であります「みる・かたる・つくる」のそれぞれを、三位一体のものとして、総合的に展開して、県民の美の広場の確立に努めております。

本年度も、地域に密着した美術館として、まず、房総関係作家の展覧会「青木滋芳展」を開催し、その業績を顕彰しました。また、近代美術館として、優れた美術作品を鑑賞する機会を提供するため、国際的視野に立った外国作家の作品を紹介する特別展「ピカソ展」を開催しました。本年は、更に洋画・日本画の秀作を集めた旧大光コレクションによる「日本の名画100年」展、「第2回現代日本具象彫刻展」を実施しました。

一方、館が収蔵する作品の展示については、一層の充実・強化に努め、館における常設展を4期にわたりテーマ別に開催するとともに、館外における移動展覧も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、企画展・特別展等に関連づけて美術講演会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座も、入門講座・研修講座に分けて実施し、美術を語る会も実技を中心に構成するなど、増加の一途をたどる県民の美術創作への意欲に対応してまいりました。

館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や収蔵家の協力を得つつ、コレクションの体系化とその充実に努めてきました。

館の諸活動が活発化するに伴い、施設の拡充が内外から望まれていましたところ、展示棟865㎡、収蔵庫544㎡、機械室284㎡の実施設計が完了し、昭和62年7月から、62年、63年度継続事業として増築工事に着工いたしました。完成は本年8月の予定であります。

昭和62年8月11日には、開館から12年余で、入館者数200万人を達成することができましたが、今後とも、関係諸機関及び各団体並びに県民の皆様の御指導と御支援をお願いいたします。

昭和63年4月

千葉県立美術館長

藤 川 昶

沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基き、建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)

昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される

昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する

昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)

昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想なる

昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる
代案として千葉市中央港埋立地が提示される

昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する

昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)

昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事の実施設計完了する

昭和47年9月21日 展示棟杭工事着工

昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる

昭和48年11月30日 管理棟(第2期工事)の実施設計完了する

昭和49年3月31日 展示棟建築工事竣工

昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する職員14名

昭和49年10月23日 開館記念式典を行う

昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める

昭和50年2月21日 管理棟杭工事着工

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される

昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和51年2月10日 管理棟建築工事竣工

昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する

昭和51年6月7日 寄付によって、正面玄関に植栽を行う

昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示をはじめる

昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する

昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる

昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する

昭和53年10月17日 債務負担行為によって美術普及棟建築予算がつく

昭和53年11月18日 浅井忠像 完成除幕式

昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する

昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する

昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される

昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和55年2月29日 県民アトリエ棟建築工事竣工

昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会

昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する

昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する

昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する

昭和58年12月31日 屋外展示場の園路及び彫像台座工事の一部が完成する

昭和61年3月25日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化

昭和61年4月10日 入口門扉4ヶ所設置

昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽

昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事

昭和62年3月25日 機械室増築基本設計及び展示棟・収蔵庫・機械室増築工事実施設計完了する

昭和62年10月15日 展示棟・収蔵庫・機械室増築工事着工(監理:大高建築設計事務所、施工:株式会社竹中工務店)

昭和62年12月7日 食堂脇に屋外彫刻場・園路が完成する

運営方針

- 県民のための美術館として、明るく親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

管 理 運 営

当館の運営方針“みる・かたる・つくる”に基づき積極的に活動し、県民のための美術館として推進してきた。

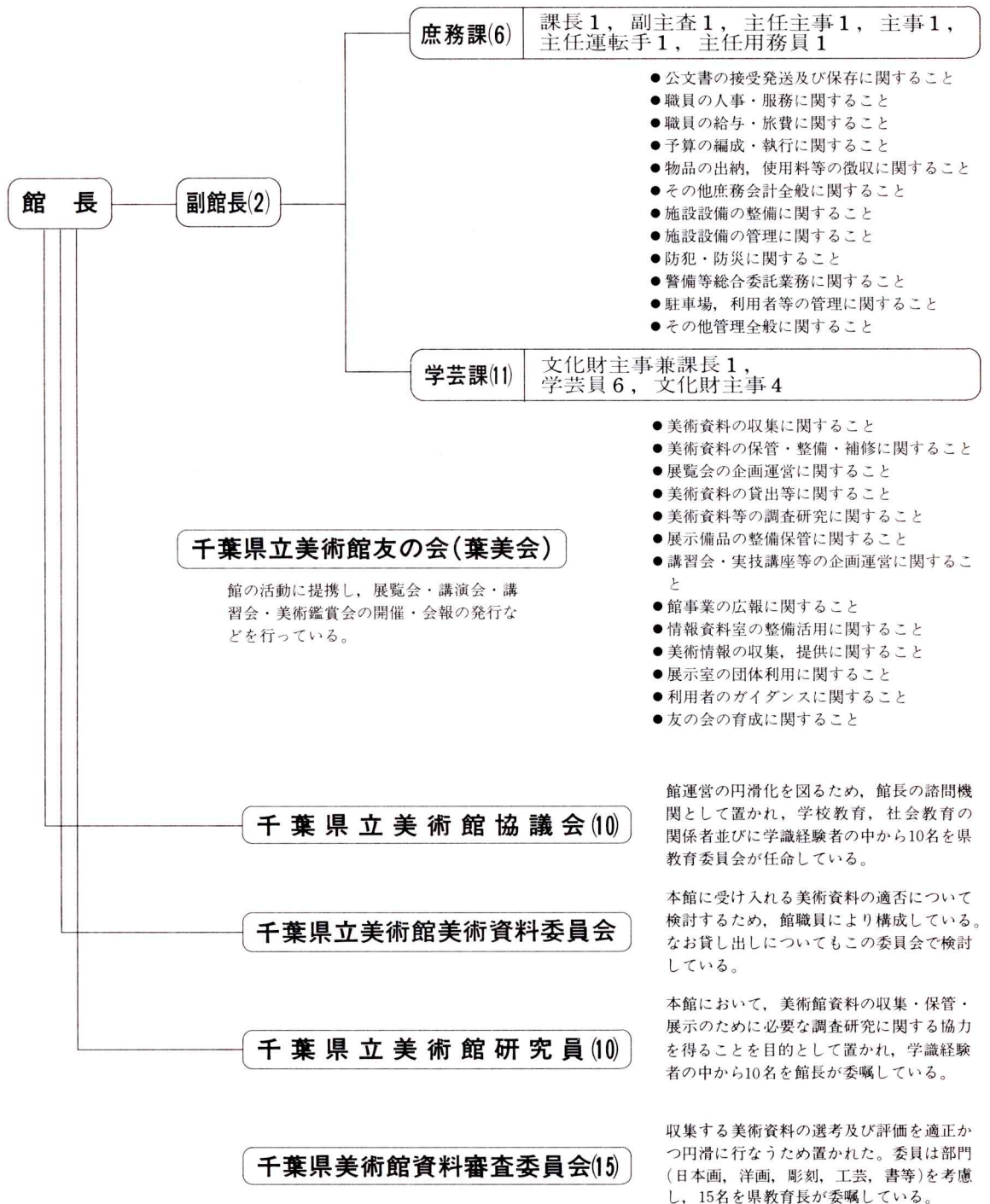
美術館研究員は、引き続き浅井忠の研究を行った。

一方資料収集については、日本画20点、洋画25点、彫刻13点、工芸14点を新たに収蔵した。

施設整備の面では、機械室増築基本設計及び展示棟・収蔵庫・機械室増築工事実施設計が完了し、7月に工事に着工した。完成予定は、昭和63年8月である。

機 構

組織及び事務分掌 (63.3.31現在)



職 員

館 長 藤 川 昶
副 館 長 保 科 昌 弘
" 森 田 保

庶 務 課

課 長 高 石 卓
副 主 査 岩 瀬 隆 司
主 任 主 事 一 杉 徹
主 事 渡 辺 和 子
主任運転手 篠 原 恒 雄
主任用務員 長 島 則 子

学 芸 課

文化財主事 中 村 哲
兼学芸課長
文化財主事 中 地 昭 男
" 鈴 木 喜 久 夫
学 芸 員 米 田 耕 司
" 大 久 保 守
" 藤 川 正 司
" 小 泉 幸 代
文化財主事 高 村 照 夫
" 田 坂 浩
学 芸 員 金 田 雅 成
" 相 川 順 子

千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職
池 田 知 之	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会会長
遠 藤 健 郎	画 家
国 松 実 枝 子	千葉県社会教育委員
郡 司 幹 雄	千葉県文化財保護審議会副会長
笹 岡 了 一 (62.6.8死亡。以後欠員)	千葉県美術会会長
鈴 木 民 三	千葉県立美術館友の会会長
高 橋 恒 三	和洋女子大学常務理事
戸 田 禎 佑	東京大学教授
野 口 貞 子	千葉市婦人グループ連絡会役員
牧 田 茂	白梅学園短期大学教授

(五十音順, 敬称略)

千葉県立美術館研究員

氏 名	役職・勤務先等	氏 名	役職・勤務先等
池 田 伊 予	千葉市立越智中学校教諭	田 邊 宏	勝浦市立興津中学校教諭
石 倉 総 子	千葉市立こてはし台中学校教諭	平 戸 美和子	千葉市立源小学校教頭
大須賀 久 大	成田市立中台中学校教諭	村 田 哲 朗	郡山市教育委員会 美術館建設準備室 参事
加曾利 和 夫	千葉市立高洲第二中学校教頭	南 隆 一	横芝町立横芝中学校教諭
高 木 正	佐原市立新島小学校教頭	綿 貫 啓 一	船橋市企画部情報管理課副主査

(五十音順，敬称略)

予 算

昭和62年度予算概要

(単位：千円)

事 業 名		予算額	事 業 概 要
運 営 費	展示事務費	27,642	特別展 2 企画展 2 常設収蔵作品展
	普及事業費	2,296	実技講座・講演会の実施等 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	310	資料調査，研究員会議等
	維持管理費	100,625	施設管理，設備・機械保守委託 その他運営費
施 設 整 備 費	備品購入費	133,300	美術資料 美術図書 展示用備品 視聴覚備品 食堂冷房装置
	委 託 費	9,620	作品修復 収蔵庫・機械室・展示棟増築監 理
	工 事 費	52,180	収蔵庫・機械室・展示棟増築工 事
	合 計	325,973	

注) ○職員の人件費は含まない。
○別に資料購入のための基金 2 億円。

収 蔵 資 料

収蔵資料（昭和63年 3 月31日現在）

収蔵別内訳

種別	区分	保管換	購 入	寄 附	合 計
日 本 画		24	90	108	222
洋 画		36	227	289	552
彫 刻		10	63	24	97
工 芸		9	71	41	121
書		14	15	35	64
版 画		3	85	46	134
合 計		96	551	543	1,190
研 究 資 料		73	128	1,217	1,418

昭和62年度新収蔵作品一覧

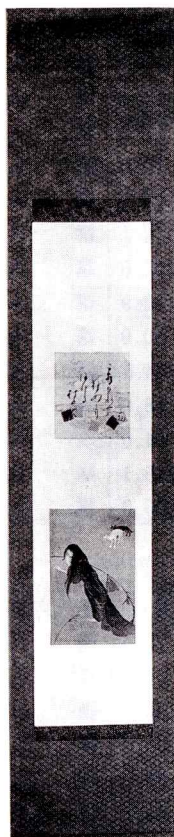
日 本 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅 井 忠	松	明治25	紙 ・ 墨	136.0× 34.0	購 入
2	"	梅	明治25	紙 ・ 墨	136.0× 34.0	購 入
3	"	欧 州 風 景	明治35頃	絹 ・ 墨	22.5× 17.0	購 入
4	"	盗 賊	明治35～40	絹 ・ 着 彩	136.0× 34.0	購 入
5	"	祖 浅 卷 物	明治35～40	紙 ・ 墨	28.0×640.0	購 入
6	"	当世風俗五十番歌合(2 番)	明治40	紙 ・ 着 彩	26.4× 17.3	購 入
7	"	当世風俗五十番歌合(7 番)	明治40	紙 ・ 着 彩	26.4× 17.3	購 入
8	"	当世風俗五十番歌合(15番)	明治40	絹 ・ 着 彩	22.5× 17.0	購 入
9	"	当世風俗五十番歌合(28番)	明治40	絹 ・ 着 彩	22.5× 17.0	購 入
10	"	籠 を 背 負 う 女	不 詳	絹 ・ 着 彩	27.7× 19.0	購 入
11	浅井画・子規句	狂 女	不 詳	絹 ・ 着 彩	絵32.0×20.2 句20.5×17.7	購 入
12	"	古 城	不 詳	絹 ・ 着 彩	絵33.1×20.7 句20.5×18.0	購 入
13	石 井 林 響	桃 源	不 詳	絹・墨・着 彩	173.0×206.0	購 入
14	"	蓬 萊 仙 境 之 図	昭和 2	絹・墨・着 彩	126.1× 40.9	購 入
15	"	老 松 白 鷺 之 図	不 詳	絹・墨・着 彩	139.8× 50.0	購 入
16	"	高 砂	不 詳	絹・墨・着 彩・双 幅	各141.3×34.0	購 入
17	鈴 木 鷺 湖	蜀 の 棧 道 図	不 詳	絹 ・ 着 彩	158.5× 88.0	購 入
18	石 井 鼎 湖	立 姿 婦 人 図	不 詳	絹 ・ 着 彩	120.0× 64.0	購 入
19	島 多 訥 郎	群 魚 と 波 動	昭和50	紙 ・ 着 彩	188.5×146.1	購 入
20	立 石 秀 春	九 十 九 里	昭和62	紙 ・ 着 彩	173.0×206.0	購 入

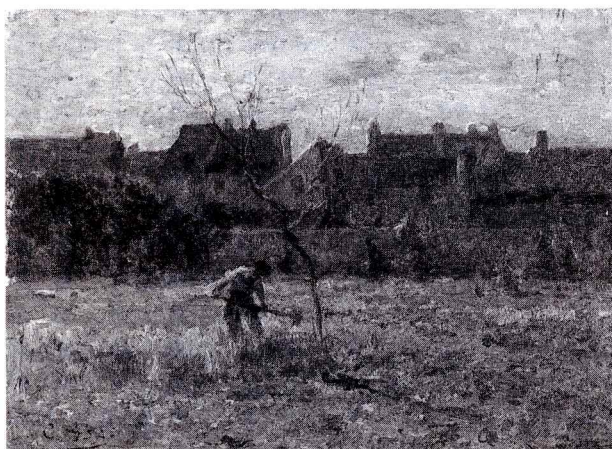
洋 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	浅 井 忠	溪 流	明治17	紙 ・ 鉛 筆	30.2× 22.5	購 入
2	"	曳 船 通 り	明治18	紙 ・ ペ ン	25.0× 44.5	購 入
3	"	フォンテンブローの夕景	明治34頃	板 ・ 油 彩	24.0× 32.6	購 入
4	"	洋 上 の 夕 陽	明治35	紙 ・ 水 彩	24.5× 36.0	購 入
5	"	母 の 肖 像	明治35～40	ボード・油 彩	39.0× 32.3	購 入
6	石 川 欽一郎	赤 城 淡 煙	不 詳	紙 ・ 水 彩	37.2× 44.7	購 入

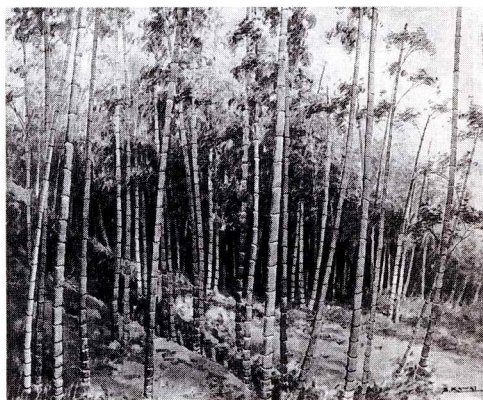
番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
7	河合新蔵	春の日	明末～大初	紙・水彩	32.0×49.7	購入
8	〃	竹林図	不詳	紙・水彩	43.0×53.5	購入
9	真野紀太郎	バラ	昭和15	紙・水彩	40.0×51.7	購入
10	安藤信哉	牧歌	昭和35	キャンバス・油彩	128.7×142.8	購入
11	内藤 聿	緑衣の婦人像	昭和36	キャンバス・油彩	90.5×73.0	購入
12	森 桂一	ランス大聖堂	昭和34	キャンバス・油彩	161.0×129.0	購入
13	積田 鰐士	貝になったブイと浜地蔵	昭和61	キャンバス・油彩	90.0×59.7	購入
14	天野三郎	水差し	昭和50	キャンバス・油彩	129.5×161.0	購入
15	秋元 恒	高生垣の家	昭和51	キャンバス・油彩	89.5×115.0	購入
16	小林 数	アマダブラム峰(ヒマラヤ)	昭和59	キャンバス・油彩	89.5×115.1	購入
17	高橋 規矩治郎	滞船	昭和45	キャンバス・油彩	128.7×161.0	購入
18	足立 源一郎	下加茂森	明治40	紙・鉛筆	29.4×38.0	寄附
19	〃	あは田	明治40	紙・鉛筆	38.0×29.4	寄附
20	〃	カーニュにて(オリーブ畑)	大正	紙・油彩	28.3×36.1	寄附
21	〃	カーニュにて	大正	紙・油彩	28.3×36.1	寄附
22	〃	女性コスチューム	大正	紙・コンテ	31.5×24.3	寄附
23	〃	裸婦	大正	紙・鉛筆	44.0×27.8	寄附
24	〃	浄土寺村ニテ	明治40	紙・鉛筆	38.2×29.4	寄附
25	無縁寺 心 澄	旧県庁と噴水	不詳	紙・水彩	52.5×73.5	寄附



浅井忠画 正岡子規句「狂女」



浅井忠「フォンテンブローの夕景」



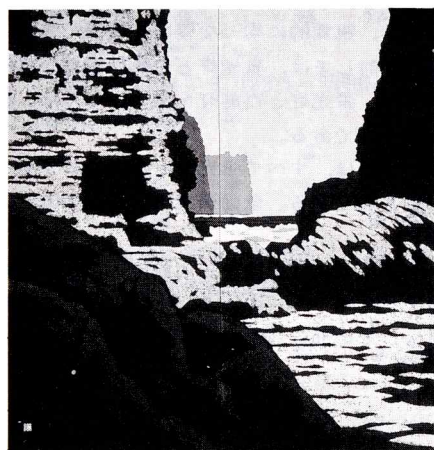
河合新蔵「竹林図」

彫 刻

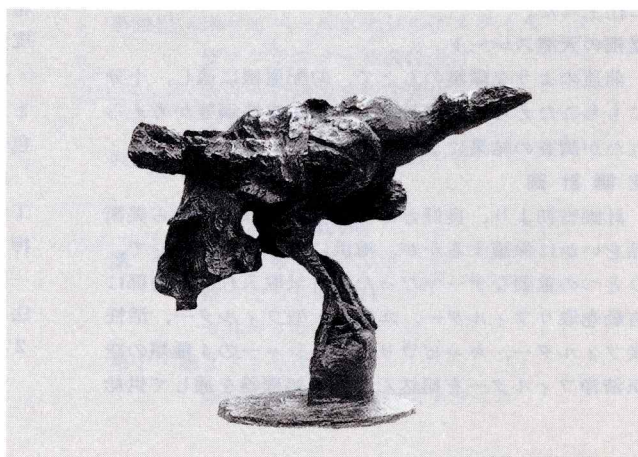
番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	柳原義達	風の中の鴉	昭和59	ブロンズ	51.0×64.0×31.0	購入
2	高田博厚	マハトマ・ガンジー	昭和35	石	28.0×25.0×28.0	購入
3	"	ロマン・ロラン	昭和36	ブロンズ	22.0×14.0×19.0	購入
4	西村房蔵	翠 蔭	昭和59	ブロンズ	90.0×56.0×52.0	購入
5	石井 滋	大 地	昭和56	ブロンズ	170.0×50.0×38.0	購入
6	本田晶彦	黎	昭和42	ブロンズ	173.0×56.0×52.0	購入
7	鈴木 徹	さくら貝	昭和53	ブロンズ	89.0×51.0×60.0	購入
8	"	馬と娘の恋物語(3部作・秋・冬・早春)	昭和59	ブロンズ	秋H43.3, 冬H49.5, 早春H73.5	購入
9	池田 丈一	ひねくれた正四面体	昭和56	木	82.0×100.0×87.0	購入
10	"	ひねくれた正12面体	昭和62	木	118.6×136.5×129.7	購入
11	浦野八重子	生きるということ	昭和62	アルミ・ブロンズ	64.0×90.0×72.0	購入
12	関 正司	IRON LADY	昭和57	鉄	H120.0	購入
13	西村房蔵	陽	昭和58	ブロンズ	71.5×30.0×21.0	寄附

工 芸

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	津田信夫	蜻蛉耳花生	昭和16~18	陶 芸	19.5×18.0×18.0	購入
2	"	瓢 花 生	昭和16~18	陶 芸	30.0×15.0×12.0	購入
3	"	白 鳥	昭和16~18	陶 芸	15.0×26.0×12.5	購入
4	"	鯰	昭和16~18	陶 芸	7.5×38.0×14.0	購入
5	"	狸	昭和16~18	陶 芸	7.5×20.0×18.5	購入
6	"	兎	昭和16~18	陶 芸	23.0×32.0×13.5	購入
7	三村比呂志	想 曲	昭和46	漆 芸	182.5×176.1	購入
8	堀口光彦	安眠装置	昭和61	彫 金	縦150.0×横150.0	購入
9	神谷紀雄	鉄絵銅彩葡萄紋大鉢	昭和62	陶 芸	高 11.0×径 54.0	購入
10	土肥紅繪	吹き去りて	昭和55	陶 芸	43.0×51.0×35.0	購入
11	青木滋芳	黒 潮	昭和52	染色	縦175.5×横167.0	寄附
12	堀口光彦	日曜日の雨	昭和52	彫 金	縦152.0×横114.0	寄附
13	神谷紀雄	鉄絵銅彩あやめ紋大鉢	昭和61	陶 芸	高 9.0×径 52.5	寄附
14	"	鉄絵銅彩椿紋壺	昭和62	陶 芸	高 30.0×径 34.0	寄附



青木滋芳「黒潮」



柳原義達「風の中の鴉」

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル-先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、珧器質タイルを型枠代にしてコンクリートと一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚味にしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2.400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2.400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施工時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m~2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、ユニット型フィルター、活性炭フィルター、キャピラリーワッシャーの4種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給

されている。

展示棟はCAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80.000lx以上、30%の時間が50.000lx以上、50%の時間が25.000lx(平均)以上、90%の時間が5.000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50.000lx(薄晴)から5.000lx(曇天)の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン(これは、計算値により鉛直面照度60.000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した)にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル(透過率53.6%)と黒地のジョーゼット(透過率35%)の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

《設計及び工事監理者》

大高建築設計事務所

《施工者》

建築：(株)竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業(株)

衛生＝第一管工事(株)

電気＝関東電気工事(株)

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

《都市計画地域指定》

用途地域：準工業地域

《規模・面積》

敷地面積：33,057.87㎡

建築面積：7,641.9㎡

建ぺい率：23.11%

延床面積：8,970.85㎡

展示棟＝5,194.59㎡

管理棟＝2,274.60㎡

県民アトリエ棟＝1,501.66㎡

駐車台数：97台

《工期及び建設経費》

第1期工事（展示棟）

○工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円

電気設備工事 79,663千円

空調設備工事 166,493千円

給排水衛生設備工事 28,995千円

外構工事 67,705千円

ガス工事 7,881千円

第2期工事（管理棟）

○工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円

電気設備工事 30,000千円

空調設備工事 79,000千円

給排水衛生設備工事 19,514千円

外構工事 17,786千円

第3期工事（県民アトリエ）

○工期 昭和54年3月22日～昭和55年3月31日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円

電気設備工事 35,000千円

空調設備工事 56,200千円

給排水衛生設備工事 13,500千円

○工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

総工事費 1,607,767千円

《概要》

建物

【階数】

地下1階、地上2階、塔屋1階建

【高さ】

基礎底：GL-500m

高さ：GL+15.20m

【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造

屋根：鉄骨造

主鋼材：SS41及び高張力鋼

コンクリートの種類：

A種・普通コンクリート（基礎・地中梁・1階スラブ） $F_c=210\text{kg}/\text{cm}^2$

B種・軽量コンクリート（梁・スラブ用・地上部） $F_c=300\text{kg}/\text{cm}^2$

C種・軽量コンクリート（地上部躯体でA、B以外の梁・壁など） $F_c=240\text{kg}/\text{cm}^2$

【外部仕上げ】

外壁：珪器質タイル、一部コンクリート打放し

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィングシート、天然スレート3枚葺

陸屋根＝アスファルト防水、押えコンクリート、豆砂利打込み

開口部：オーダーメイド自然発色サッシ、一部型钢グラファイト処理サッシ

【内部仕上げ】

展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル

床＝自然石（北木島御影）円盤摺および本磨（第7室）

壁＝石綿珪酸カルシウム、板下地クロス張り、塗装仕上げ

壁＝コンクリート砕り仕上げ（第7室）

天井＝岩綿吸音板、塗装仕上げ

天井高＝3,240～13,500mm

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイル

壁＝プラスター塗装仕上げ

天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高＝3,400mm

収蔵庫：床＝フローリングブロック

壁・天井＝米杉

天井高＝3,400mm

講堂：床＝置敷カーペット

壁＝マコレ練付け

天井＝クロス張り

第1・第2アトリエ：

床＝ビニールアスベストタイル

壁＝コンクリート打塗装仕上げ

天井＝軟質石綿板

研修室：床＝ビニールアスベストタイル

壁＝クロス張り

天井＝岩綿吸音板

和 室：床＝玄晶石水磨き、タタミ、檜家甲板

壁＝京じゅらく塗

天井＝杉柂ベニヤ目透シ、竿縁天井

設 備

【電気設備】

受電方式：交流 3 相 3 線式 6,000 V 50 Hz

契約容量：560 Kw

電話交換方式：

40回線クロスバー完全共通制御分散中継
方式

【空調設備】

展示棟＝C A V (定風量型)＋V A V (可変風量型)方
式

管理棟＝V A V 方式

保管庫＝露点再熱制御方式

県民アトリエ棟＝各室ハンドリング方式

熱源：空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水：ポンプ庄送方式，引込み管径75mm

排水：汚水・雑排水合流方式系統（管径300），雨水
系統（管径300）別，公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式：自然排煙，機械排煙（第1,2,7 展示室）

消火方式：屋外・屋内消火栓，不燃性ガス消火設備
（ハロゲン1301）

自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機，定格出
力100 KVA

火災報知設備：

P 型 1 級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備：ITV カメラ設備，防犯警報装置

昇降機設備：荷物用エレベーター

規模：容量 3,000kg，カゴ内法＝ 3,000mm×
3,000mm×3,000 mm，速度＝30 m/min

展 示 棟

玄関ホール	102.40	m ²	厨 房	36.00	m ²	フィルター室	28.92	m ²
クローク	91.80	m ²	従業員控室等	17.28	m ²	工 作 室	31.00	m ²
倉 庫 A	2.70	m ²	食堂ホール	49.20	m ²	発 電 機 室	25.00	m ²
〃 B	2.70	m ²	ミュージアムショップ	12	m ²	電 気 室	123.20	m ²
第一展示室	437.76	m ²	ロ ビ ー	335.52	m ²	ポ ン プ 室	76.80	m ²
〃 二 〃	400.32	m ²	第一休憩室	23.04	m ²	機 械 室	305.20	m ²
〃 三 〃	469.08	m ²	〃 二 〃	23.04	m ²	高架水槽室	11.46	m ²
〃 四 〃	403.20	m ²	〃 三 〃	23.04	m ²	E. V 機械室	27.28	m ²
〃 五 〃	824.19	m ²	便 所 A	30.24	m ²	E. V 廻 り	54.56	m ²
〃 六 〃	330.58	m ²	〃 B	23.76	m ²	ダクトスペース	35.68	m ²
〃 七 〃	566.56	m ²	身障者用便所	7.92	m ²	廊 下 等	123.48	m ²
食 堂	119.52	m ²	コントロール室	20.16	m ²	合 計 ①	5,194.59	m ²

※展示室総面積 3,431.69m²

※収蔵庫総面積 227.21m²

管 理 棟

(1 階)

第 2 会議室	22.62	m ²
更衣室	14.83	m ²
医務室	21.18	m ²
文書庫	22.02	m ²
警備員室	43.59	m ²
第一会議室	20.15	m ²
倉庫	7.19	m ²
湯沸室	5.19	m ²
便所	24.54	m ²
宿直室	34.20	m ²
物置	9.92	m ²
用務員室	31.83	m ²
審査室・資料準備室・荷解室	520.68	m ²
消毒室	31.79	m ²
資料倉庫	124.25	m ²
荷解梱包保管室	52.67	m ²
荷扱人控室	21.94	m ²
機械室	51.74	m ²
廊下等	123.52	m ²
小計	1,183.85	m ²

(2 階)

館長室	33.27	m ²
副館長室	23.42	m ²
第一応接室	14.67	m ²
第二応接室	14.55	m ²
庶務課室	112.34	m ²
会議室	43.84	m ²
学芸課室	195.32	m ²
学芸相談室	23.91	m ²
研究工作室	216.49	m ²
写真スタジオ	54.30	m ²
器材室	6.74	m ²
暗室	12.19	m ²
第一収蔵庫	184.40	m ²
〃 二 〃	42.81	m ²
E・V 前室	16.39	m ²
便所	21.50	m ²
湯沸室 A	3.24	m ²
〃 B	6.87	m ²
廊下等	60.94	m ²
ダクトスペース	3.56	m ²
その他		
小計	1,090.75	m ²
合計②	2,274.60	m ²

県民アトリエ棟

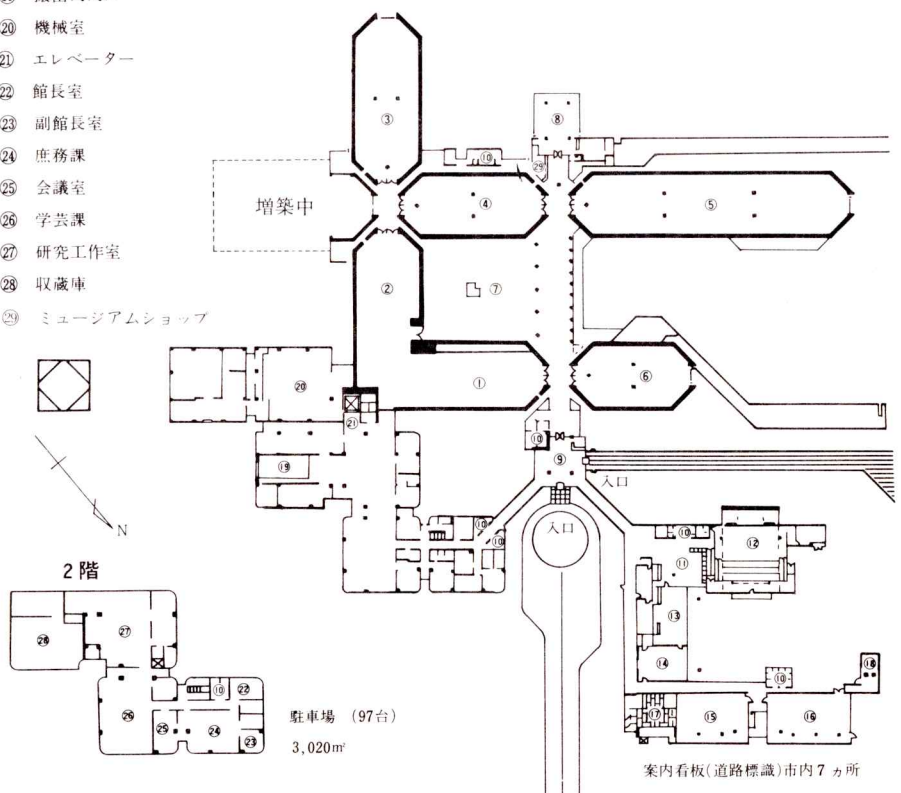
1 F 機械室	25.92	m ²
講堂倉庫	8.64	m ²
講堂	259.24	m ²
コントロール室	30.33	m ²
ホール側便所	29.97	m ²
情報資料室	172.77	m ²
同上倉庫	4.70	m ²
事務室	22.76	m ²
研修室	74.70	m ²
同上倉庫	4.23	m ²
第1アトリエ	155.70	m ²
第2アトリエ	184.31	m ²
第3アトリエ	95.47	m ²
アトリエ側便所	20.77	m ²
荷解室	25.65	m ²
窯場	27.17	m ²
同上倉庫	6.66	m ²
ホールその他	352.67	m ²

合計③ 1,501.66 m²

総合計 8,970.85 m²
(①+②+③)

施 設

- | | |
|-----------------|--------------|
| ①～⑦ 展示室 | ⑮～⑰ 実技室 |
| ⑧ 食堂(44席) | ⑱ 窯場 |
| ⑨ 玄関ホール | ⑲ 搬出出入口 |
| ⑩ トイレ | ⑳ 機械室 |
| 男子用6カ所 | ㉑ エレベーター |
| 女子用6カ所 | ㉒ 館長室 |
| 身体障害者用2カ所 | ㉓ 副館長室 |
| ⑪ ホール | ㉔ 庶務課 |
| ⑫ 講堂(200人) | ㉕ 会議室 |
| ⑬ 情報資料室 | ㉖ 学芸課 |
| 火～金 12:30～16:30 | ㉗ 研究工作室 |
| ⑭ 研修室(40人) | ㉘ 収蔵庫 |
| | ㉙ ミュージアムショップ |



案内看板(道路標識)市内7カ所

事業

1. “みる”事業

常設収蔵作品展を年4期に分けて開催し、特に浅井忠の作品・資料は常陳した。

特別展としては、「日本の名画100年」と「ピカソ展」を開催した。

企画展としては「房総の美術家シリーズ-17-青木滋芳展」と「第2回現代日本具象彫刻展」を開催したほか、「第11回千葉県移動美術館」を印旛村と富津市において開催した。

2. “かたる”事業

「美術講演会」を2回、「美術を語る会」は実技関係を中心に10回開催した。

3. “つくる”事業

経験者を対象とした美術館講座7種13講座、延日数116日、初心者を対象とした美術館友の会講座10種13講座、延日数65日開催した。

常 設 展

常設 収蔵作品展（第Ⅰ期）

今年度常設収蔵作品展第Ⅰ期は、第1部新収蔵作品展、第2部浅井忠展で構成した。

第1部では、昨年度に収蔵した日本画、洋画、彫刻、工芸、書の作品を、第2部では、佐倉藩出身の明治洋画の巨匠、浅井忠の画業を紹介した。浅井は我国最初の洋風美術団体“明治美術会”を創立、滞欧時代にはフォンテンブローやグレーの自然を描いた名作を生み、晩年は京都高等工芸学校図案科教授、また関西美術院院長として、梅原龍三郎、安井曾太郎ら多くの俊才を育て、明治期の美術界に大きな業績を残している。今回は、油彩、水彩、素描、図案、日本画の作品に焦点をあてて展覧した。

会 期 昭和62年4月1(水)～5月10日(日)

36日間

展示点数 105点

入場者数 17,012人

出 品 目 録

第1部

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
日 本 画		林 檣 と 柿	
石 井 林 響	嵐	三 宝 柑	
〃	華 と 白 鳥	赤 屋 根 の 村	
〃	達 磨	山 草 花 景	
〃	竹 花 鳥	風 静 か な る 日	
〃	冬 景 色	外 房 鶴 原	
〃	夏 釣 人 人	敦 煌	
〃	白 衣 の 老 人	涅 槃 の 前 で	
〃	老 人 と 船	動 く 気 配 の 鳥	
〃	寒 山 拾 得 人	船 具	
〃	崖 に 向 か う 老 人	犬吠灯台の見える外川港	
〃	舟 遊 園 子	波 涛 の 歌	
〃	唐 山 園		
〃	晨		
関 主 税		彫 刻	
渡 辺 阿以湖	牡 丹	安 西 順 一	毘 沙 門 天 像
大 田 歳	有 北 明 海 衣	伊 藤 礼太郎	夜 叉 神 解 脱
〃		鈴 木 啓 子	FEELING-LOVE 白いポーズ
稲 木 皓 人	更	工 芸	
五十嵐 幹	華	津 田 信 夫	花 蝶 文 黒 銅 香 瓶
齋 藤 惇	五 台 山 大 白 塔	大 須 賀 喬	昆 蟲 文 飾 皿
丸 山 晩 霞	長 野 水 内 風 景	〃	象 嵌 花 器 (展)
小 山 周 次	ば 牧 丘	三 橋 英 作	戦 碑
〃	甲 斐 牧 丘	横 山 光ノ介	
〃	花 菖 蒲	書	
〃	銚 子 犬 吠 埼	中 台 邱 園	盧 綸 詩

第2部

浅井忠 コーナー

作家名	作品名
浅井 忠	薬屋 根
"	農 婦
"	老 母 像
"	鍛 冶 橋
"	印 旛 沼
"	鎌倉 建長寺 (1)
"	鎌倉 建長寺 (2)
"	平城 大仏 鐘 楼
"	房州 白浜 村
"	房州 白 浜
"	房州 波太 村
"	磐梯 山の 図
"	金州 城 壁 上
"	兵 士 像
"	男 性 裸 像
"	フォンテンブローの森
"	奈良 郊 外
"	京都高等工芸学校の庭
"	田 植 之 図
"	ほ し か き
"	金州 城外 之 図
"	漢 人 の 図
"	猿 の 図
"	雨中の村と舟人図
"	韓 信 図
"	羊 の 図
"	もろこしと鳳仙花

作家名	作品名
"	参 詣
"	大津絵 金太郎
"	大津絵 娘の潮くみ
"	大津絵 弁慶に釣鐘
"	図案画稿 (戸棚図)
"	図案画稿 (タチョウ図)
"	図案画稿 (溪 流)
"	図案画稿 (花瓶2種)
"	図案画稿 (花瓶図)
"	図案画稿 (木かげの女)
"	図案画稿 (春日野花瓶)
"	図案画稿 (大津絵皿)
"	ライオンの像
"	お 福 の 像
"	舞 楽 面
"	茶 器 (黙語図案)
"	向付皿・楊枝挿
浅井忠資料	中 学 習 画 帖
"	小 学 鉛 筆 画 帖
"	月瀬紀行・薫世界
"	当世風俗五十番歌合(上下)
"	吉野紀行・錦世界
"	図 案 集
"	スケッチブック
"	教科書割付
"	下 絵 類
"	図 案 草 稿

常設 収蔵作品展 (第II期)

今年度常設収蔵作品展第II期は、2部に分けて構成した。

美しい自然に恵まれた房総の地には、昔から多くの画家が訪れ、また住みついて、数多くの名作が生みだされてきた。第1部では、本館が収蔵している日本画、洋画の作品より、房総の風物をモチーフにした作品を紹介した。

第2部では、佐倉藩出身であり、明治洋画の巨匠浅井忠の晩年の京都時代に焦点をあてて紹介。フランス留学より帰国後、京都高等工芸学校図案科教授として京都に移住した浅井は、関西美術院を創立し、多くの優れた作家を育てた。洋画界のみならず、工芸界においても、遊陶園・京漆園を仲間と設立し、陶芸や漆芸に斬新な図案をもたらした。この他、日本画・彫塑まで多方面に活躍した浅井の業績を展覧した。

会 期 昭和62年6月30日(火)～8月2日(日)

30日間

展示点数 56点

入場者数 13,031人

出 品 目 録

第1部

作家名	作品名	作家名	作品名
日 本 画		"	波 上 海 女 図
富 取 風 堂	朝 光	渡 辺 学	夜 明 け
峯 岸 魏山人	九 十 九 谷	岩 崎 巴 人	波 涛 岩 礁 図
吉 岡 堅 二	馬	加倉井 和 夫	穀 機
若 木 山	海 女		

作家名	作品名
洋画	
小山 周次	銚子犬吠埼
大久保 作次郎	丘上の鐘楼
椿 貞雄	鋸山から見た房総半島

作家名	作品名
中西 利雄	外房風景
富田 通雄	外房鵜原
小堀 進	海(白浜)
寺田 政明	犬吠灯台の見える外川港

第2部

作家名	作品名
《京都時代の浅井忠》	
浅井 忠	京都高等工芸学校の庭
"	花
"	奈良郊外
"	中沢岩太像
"	東宮御所壁飾草稿(1)
"	老母像
"	婦人像
"	凶案画稿(鉢の図)
"	凶案画稿(戸棚図)
"	亀の図
"	種まきの図
"	盗賊像
"	農婦像
"	農家風俗手塩皿
"	花瓶
"	東宮御所壁飾「武士の山狩」
"	草稿墨線画
"	月瀬紀行薰世界
"	中等鉛筆画手本
"	水彩スケッチ
"	当世風俗五十番歌合(上下)
"	新編自在画臨本

作家名	作品名
"	吉野紀行錦世界
"	書簡・絵葉書類
"	写真

《浅井忠をめぐる京都洋画壇の人々》

牧野 克次	松	林
伊藤 快彦	林	檜
桜井 忠剛	バ	ラ
小笠原 豊涯	中井 八重子	像
都鳥 英喜	洛北の早春	
中林 儼	山中湖附近	
加藤 源之助	秋の山(大和初瀬村)	
田中 志奈子	デッサン(裸婦)	
榊原 一広	南仏風景	景
長谷川 良雄	晩	秋
沢部 清五郎	婦人	像
霜鳥 之彦	緑のスウェーター	
間部 時雄	田園風景	景
黒田 重太郎	浴	後
安井 曾太郎	熱海附近	
梅原 龍三郎	皇	居
田中 善之助	聖護院の裏	

常設 収蔵作品展 (第Ⅲ期)

今年度常設収蔵作品展第Ⅲ期は、「明治・大正・昭和 水彩画の流れ」として、近代日本の美術史において、見のがすことのできない水彩画の展開を本館収蔵作品により展覧した。

明治・大正・昭和と近代日本洋画史の変遷の中で水彩画の位置も様々に変化し、展開してきた。日ごろ、私たちに親しまれている水彩画をここで改めて見直す良い機会とした。

浅井忠コーナーにおいても、浅井の優れた才能を最も良く発揮した水彩画に焦点をあて紹介した。

会 期 昭和62年9月12日(土)～10月18日(日)

32日間

展示点数 50点

入場者数 26,079人

出 品 目 録

作家名	作品名
水彩画	
牧野 克次	松
丸山 晩霞	長野水内風景
大下 藤次郎	紫陽花
"	青
"	久々子湖

作家名	作品名
石川 欽一郎	水
白滝 幾之助	エジプト
"	伊国ナポリ
三宅 克己	小諸城址
中林 儼	けしの花
石井 柏亭	舟に居る人

作家名	作品名	作家名	作品名
"	晩春行楽図	小堀進	南欧の丘
"	舞姫	"	霞ヶ浦
長谷川 良雄	晩秋	荒谷 直之介	若い裸婦たち
小山 周次	ばら	三橋 兄弟治	ハティバの城壁
"	甲斐牧丘	五十嵐 光昭	涅槃の前で
"	花菖蒲	浅井忠コーナー	
"	三宝柑	浅井 忠	風景
古賀 春江	風景	"	磐梯山の図
田中 善之助	山門	"	金州城壁上
赤城 泰舒	赤屋根の村	"	金州城南門外
"	山湖	"	男性裸像
水野 以文	草花	"	フォンテンブローの森
後藤 工志	ダリア	"	洋上の夕陽
中西 利雄	トリエール・シュール・セヌ	"	農家
"	南仏風景	"	帆船の図
"	四人の女	"	つばきの図
不破 章	二女	"	糸をくむ女
"	奥鬼怒の湯治場	"	大原女
富田 通雄	外房鶴原	"	花
"	静かなる日	"	東宮御所壁飾草稿(2)

常設 収蔵作品展（第Ⅳ期）

今年度収蔵作品展第Ⅳ期は2部に分けて構成した。第1部では、前期に引き続き、浅井忠コーナーを設け、油彩、水彩画及び日記類などの資料を展覧した。また、千葉に生まれ、あるいは定住して、近代日本美術史に大きな功績を残した作家や、千葉県の美術の振興に尽した作家など房総ゆかりの作家10人を取りあげ、作品を一堂に展覧した。

第2部では、今年度新たに収蔵した日本画、洋画、彫刻、工芸の作品を紹介した。

会 期 昭和62年12月8日(火)～昭和63年3月31日(木)

92日間

展示点数 177点

入場者数 47,971人

出 品 目 録

第1部

作家名	作品名	作家名	作品名
日本画		"	残照
石井 林 響	木華開耶姫	"	夕
"	春	"	駅
"	夜道を駆けける人	"	暮
"	高士観瀑	"	群
"	梅花書屋	"	うすれ陽
"	唐美人	若木 山	安房ノ海処女
"	羅浮仙女	"	三鶯刈る信濃の女
"	秋景山水	"	早
"	浦島太郎図	"	池の春
富取 風 堂	游鯉(其一)		
"	游鯉(其二)		
"	葛西風景	作家名	作品名
"	廐舎	洋画	
"	秋の草	椿 貞雄	自画像
"	漁港の朝		

作家名	作品名
"	沢入 駅
"	貌子窩第二軍司令部
"	男性裸像
"	フォンテンブローの森
"	農家
"	溪流
"	曳船通り
"	平壤大同江煉光亭

作家名	作品名
"	京都高等工芸学校の庭
"	中沢岩太像
"	印旛沼
"	白浜風景
"	金州城壁上
"	洋上の夕陽
"	奈良郊外

第2部

新収蔵作品

作家名	作品名
洋画	
石川 欽一郎	赤城 淡煙
河合 新藏	春の 日
"	竹林 図
真野 紀太郎	バ ラ 歌
安藤 信哉	牧 歌
無縁寺 心澄	旧県庁と噴水
内藤 圭一	緑衣の婦人像
森 桂一	ランス大聖堂
小林 数郎	アマダブラム峰(ヒマラヤ)
天野 三郎	水 差 し
積田 鏗士	貝になったパイと浜地蔵
秋元 恒	高生垣の家
高橋 規矩治郎	滞 船
日本画	
鈴木 鷺湖	蜀の 棧道 図
石井 鼎湖	立姿 婦人 図
石井 林響	桃源 図
"	蓬萊仙境之 図
"	老松白鷺之 図
"	砂 動
島多 訥郎	群魚と波 動

作家名	作品名
彫刻	
高田 博厚	マハトマ・ガンジー
"	ロマン・ロラン
柳原 義達	風の中の鴉
本田 晶彦	黎
石井 滋藏	大地
西村 房藏	太陽
"	翠 蔭
鈴木 徹	さくらの貝
"	馬と娘の恋物語 ^(3部作一) (秋・冬・早春)
池田 丈一	ひねくれた正四面体
"	ひねくれた正12面体
浦野 八重子	生きるということ
工芸	
青木 滋芳	黒 潮
堀口 光彦	日曜日の雨
"	安眠装置
土肥 紅繪	吹き去りて
神谷 紀雄	鉄絵銅彩あやめ紋大鉢
"	鉄絵銅彩葡萄紋大鉢
"	鉄絵銅彩椿紋壺

通年常設展示

彫刻

作家名	作品名
藤野 天光	銃後工場 護り
"	あ 青 春
綿引 司郎	遙面 鳥
鈴木 章力	子 の 女
大須 賀太	立 像
木村 賢太郎	うごめくトルソー II
"	うごめくトルソー VI
"	海
郡司 和男	詩人の肖像 像
中山 幹夫	風の肖像 像
鈴木 英五	地を這うものども XIV
鈴 徹	帰 雲 春

特 別 展

県民の日記念事業 日本の名画100年

—新潟県美術博物館所蔵・旧大光コレクションより—

会 期 昭和62年 5月16日(土)～6月21日(日) (33日間)

展示点数 79点

入場者数 13,942人

日本における洋画・日本画は、明治、大正、昭和の激動の時代を反映して、幾多の変遷を経てきた。

この時期の多様な作品を鑑賞する機会として、質量共に高い声価を得ている旧大光コレクションの優品を、現所蔵者である新潟県美術博物館の協力を得て企画・展覧した。

本展覧会では、日本洋画の黎明記に活躍した浅井忠、小山正太郎をはじめとする49人の洋画家による72点を中心に、併せて東山魁夷ら日本画家4人の7点を加え、53作家による名画を一堂に展覧し、明治・大正・昭和の多様な近・現代美術の流れについて理解を深める機会として開催した。

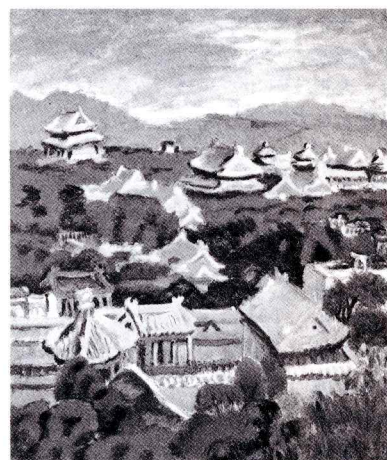


出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
洋 画			
浅 井 忠	農 人	鳥海 青児	北 海 道 風 景
浅 井 忠	岩 礫 の あ る 海	鳥海 青児	二 重 橋
小山正太郎	糸 を 紡 ぐ 老 婆	鳥海 青児	ベ ル リ ン 風 景
小山正太郎	婦 人 C.	山口 長男	段
満谷国四郎	裸 婦	山口 長男	漠
高村 真夫	春 日 野	海老原喜之助	燃 え る
青木 繁	妙 義 山	斎藤 義重	や じ ろ べ え
坂本繁二郎	牛	斎藤 義重	作 品 1
萬 鉄五郎	雪 の 景	斎藤 義重	作 品
萬 鉄五郎	木 の 間 風 景	斎藤 義重	"反対称" 三角形No.1
藤田 嗣治	私 の 夢	斎藤 義重	DISSYMMETRY DIAGONAL
小出 檣重	ソファの裸体(裸体のB)	難波田龍起	森 の 詩
梅原龍三郎	紫 禁 城	吉原 治良	作 品
安井曾太郎	読 書	佐藤 敬	作 品
坂田 一男	椅 子 に よ る 裸 婦	山口 薫	夜 明 け の 顔
高間 惣七	海 風	山口 薫	林 と 動 物
高間 惣七	バンダの花と青い鳥	森 芳雄	バ レ リ ー ナ
地主 悌助	石	脇田 和	あ ら そ い
牧野 虎雄	サ ン ル ー ム	脇田 和	花 ・ 鳥 ・ 人
岸田 劉生	冬枯れの道路—原宿附近写生—	脇田 和	双 鳥
須田国太郎	三 輪 附 近	脇田 和	鳥 を 呼 ぶ 人
長谷川利行	風 景	中谷 泰	晩 秋
児島善三郎	森 と 聚 落	小野 末	高 原 (妙 高)
北川 民次	大 地	小野 末	夏 の 街
前田 寛治	赤 い 帽 子 の 女	小野 末	街 角
佐伯 祐三	広 告 塔	小野 末	東 大 風 景
野間 仁根	花 園	小野 末	闘 牛 場
		糸園和三郎	鳩

作家名	作品名	
川端 実	作 品	1963
高井 貞二	作品・MIDORI TO UZU	1965
オノサト・トシノブ	同 心 円	1971
阿部 展也	予 言 者	1954
桂 ゆき	異 邦 人	1961
田中田鶴子	ミ ク ロ コ ス ム	1961
久野 真	鋼 鉄 に よ る 作 品	1963
田 渕 安一	輪 舞	1961
元永 定正	作 品 ピ ン ク 赤	91 1960
前田 常作	人 間 誕 生	6 1962
前田 常作	人 間 波 動 粒 子 ・ 日 輪	1970-72
前田 常作	須弥山界道図シリーズ(寿量光)	1974-75
金 昌烈	水 滴	1974

作家名	作品名	
高橋 秀	ピンクの中の思考	1971
高橋 秀	春	C.1971
高橋 秀	ア リ ス の 月	1976
李 禹煥	線 よ り	1976
日本画		
東山 魁夷	森 の 静 寂	1964
工藤 甲人	夜	1963
加山 又造	馬	1957
加山 又造	月 と 駱 駝	1957
加山 又造	烈 風	
麻田 鷹司	楮 那 智	1960
麻田 鷹司	東 尋 坊	1962



梅原龍三郎「紫禁城」



小出楯重「ソファの裸体(裸体のB)」



安井曾太郎「読書」



ピカソ展

ーマリーナ・ピカソ・コレクションー

会 期 昭和62年8月7日(金)～9月6日(日) (27日間)

展示点数 153点

入場者数 22,390人

20世紀の美術界に偉大な足跡を残したスペインの画家、パブロ・ピカソ(1881～1973)は、彼の没後、多くの作品が遺族に相続されたが、なかでも長男ポールの娘マリーナの所蔵となったコレクションは、作品の質・量ともに恵まれたものである。

本展覧会では、同コレクションの中から未公開の作品を中心に選び、ピカソの少年時代から晩年までの絵画、陶器、素描を展覧し、広く県民に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した。



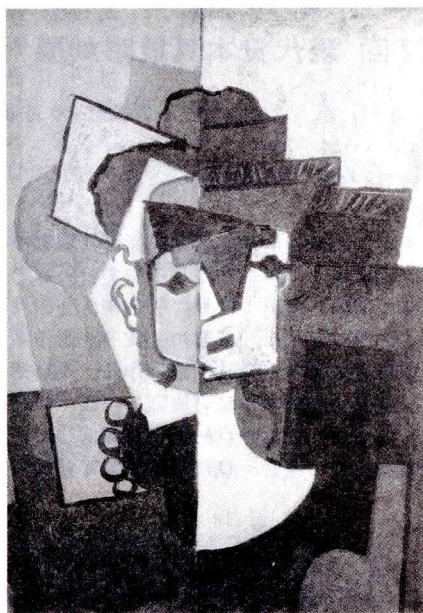
出品目録

作 品 名	制作年
絵 画	
風 景	1901
青いネッカチーフの女	1902
ギ タ ー	1912
正面を向いたポートレート	1917～1918
木 陰 の 田 園 詩	1918
静 物	1922
グラスのあるコンポジション	"
二つの部分からなるポートレート	1924
顔	1926
左向きのプロフィール	1928
ジュアン・レ・パンの家	1931
アラベスク風の女	"
コンポートのあるコンポジション	"
ページュのコンポジション	"
浜辺でボール遊びをする女たち	1932
顔	1936
女 の 頭 部	1937
生き生きした緑の樹々	1943
灰色の服の女	"
ノートルダム寺院	1944
死者の頭部、ランプなど	1945
眠 る 顔	"
あ ざ 笑 う 女	1946
半 身 像	1947
緑と薄紫の服の女	"
ラ・カルフォルニー荘	1958
マンドリン・壺・びん	1959
坐 る 裸 婦	"
画 家 と モ デ ル	1963

作 品 名	制作年
椅子にもたれる裸婦	1967
17世紀のスペイン人	"
闘 牛 士	1970
編み物をする女とそれを見る人	"
マ ン ド リ ン	1910
コ ラ ー ジ ュ	1914
ク ラ ブ の エ ー ス	"
ギ タ ー	1919
ギ タ ー	1920
顔	1926
頭部のコンポジション	"
レンガ色のバックの頭部	1928
球 を も つ 人 物	1929
接 吻	1930
海に向かって走る女	1932
風 景	1933
酒 壺 の ある 静 物	1937
パレットと牛の頭のある静物	1938
絶 望 し た 女 の 顔	"
ベットの 中 の 子 供	1946
ひじかけ椅子に坐る女の肖像	1948
後向きの女のプロフィール	1953
女 の 顔	1954
カンヌの水上競技	1957
寓 意	1960
坐 る 女	1964
アトリエのモデル	1965
人 物	1970
魚のコンポジション	

作 品 名	制作年
陶 芸	
長 型 の 皿 ・ 魚	1947
長 型 の 皿	
長 型 の 皿	1947
長 型 の 皿	"
四隅の丸い長方形の陶板	
長 型 の 皿 ・ 鳥	
円 型 の 皿	
首 の 傾 い た 壺	1948
尖った注口を持つ大きな酒壺	"
四 角 型 の 花 瓶	
四隅の丸い長方形の陶板	1948
二つの注ぎ口を持つ酒壺	
壺 ・ 女	1948～1949
リ ボ ン の あ る 壺	1950
二 本 の 柄 の あ る 鍋	"
柄 の あ る 壺	1951
大 き な 壺	1952
注 ぎ 口 の あ る 酒 壺	
6本の足と2本の柄のある壺	1952
ふくらみのある壺	"
柄 の あ る 壺	"
円 型 の 皿	1953
尖った注ぎ口を持つ酒壺	1953
女たちの装飾のある壺	
大 き な 酒 壺	1954
二 色 の 酒 壺	"
円 型 の 大 皿	1956
魚 の 骨 の 押 型 (四隅の丸い長方形の陶板)	"
魚 の 骨 の 押 型 (四隅の丸い長方形の陶板)	"
ふくろうの飾りの六角形のトメット	
みみずくの飾りのトメット	
枝 を も つ 人 物 (66枚のタイルで構成されたフレスコ)	
オークル色の円型大皿	1960
アズテックの壺	1961
レンガの断片(顔 1/2)	1962
大 鉢	
夫婦(12枚の陶板によるフレスコ)	1963
黒 と 白 二 色 の 壺	"
《草上の昼食》の陶板	1964
円 型 の 大 皿	1965
素 描	
軍 人 と 騎 士	1894
軍 人 と 騎 士	"
森 の 中 の 二 人	1895
a) スペインのダンサー	1897
b) 木	
パイプをくわえた髭の男	1899
母 子 像	1902～1903
自 画 像	"
左 面 半 の 男 の 顔	1906
3人の女のための習作	1907～1908

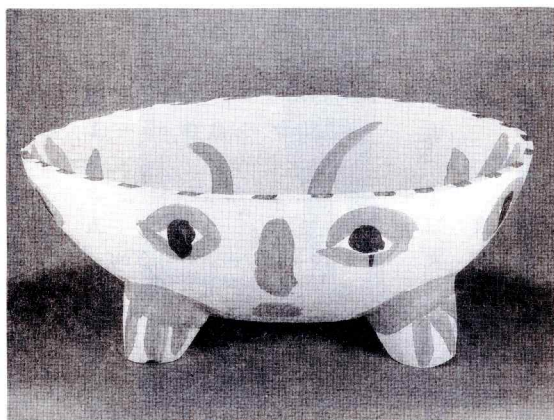
作 品 名	制作年
右腕を上げた女のトルソー (エチュード)	1909
裸 婦(立 像)	1909
腰に両手を置いた女	1912
野原に横たわる男	"
腰 か け た 男 顔	"
グラスと瓶のある食卓についた男	1913
人 物	1914
犬 と 坐 る 女	"
ひ じ か け 倚 子 の 男	"
パイプとグラスを持った男	"
新聞と男(エチュード)	"
坐 る 人	"
ギターを持ったひじかけ倚子の女	1915
手を組み合わせ腰かけた女のポートレート (エチュード)	"
暖炉のそばで読書をするカップル	1917
オルガ(左・プロフィール)	"
人 物(全 身 像)	"
ローマのヴィラ・メディシス	"
中世風に髪を結った女の顔	"
パイプをくわえた自画像	"
アン テ ィ ー ブ 港	1920
風 景	"
坐 る 女	1921
顔	1925
男 の 顔	1934
ミ ノ タ ウ ロ ス	"
女 の 顔	1941
羊 と 男	1942
子供に授乳する女	1944
フルートを吹く牧羊神	1946
ケ ン タ ウ ロ ス	"
裸婦・立像とプロフィール	"
鎧を付けた騎士と裸婦	1951
眠 る 女	1952
戦争と平和(エチュード)	"
子 供 の 顔(パ ロ マ)	1954
眠 る 裸 婦(横 臥)	"
二 人	1956
人 物	1957
女 の 立 像	1961
銃 士	1972
水 浴 する 女 た ち (素描集、全24ページ)	1923
風 景	1951
(素描集・全12ページ)	
ヘレナ・ルビンスタインの肖像 (素描集・全24ページ)	1955
裸 婦 素 描 (素描集・全32ページ)	1964
関係資料	
パレット、筆、絵具類	



ピカソ「正面を向いたポートレート」



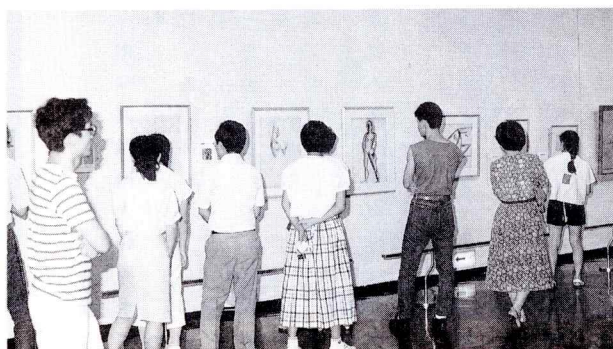
ピカソ「マンドリン・壺・びん」



ピカソ「大鉢」



ピカソ「画家とモデル」



企 画 展

— 21世紀への飛躍 —

第2回 現代日本具象彫刻展

会 期 昭和62年 8月 7日(金)～ 9月 6日(日) (27日間)

展示点数 73点

入館者数 22,390人

千葉市に建設中の500万県民記念「青葉の森公園」(約53ha)内の「彫刻の広場」に県民が親しみやすい具象彫刻を設置するため、昭和60年に開催した第1回展に引き続き全国規模で作品の公募を行った。この展覧会では、公募の受賞・入選作品と「彫刻の広場」に作品の設置を依頼する招待作家の作品、及び第1回展における招待作家、大賞受賞作家の作品を展覧し、広く県民の方々に彫刻の美を鑑賞していただくことを目的として開催した。(主催＝千葉県・千葉県教育委員会/運営＝現代日本具象彫刻展実行委員会)

審査員

小川正隆 ※嘉門安雄 弦田平八郎
富山秀男 中村傳三郎 本間正義
三木多聞 (50音順) ※は審査会長

全国第2回

現代日本具象彫刻展

テーマ 21世紀への飛躍

87.8月7日～9月6日
(会場＝千葉県立美術館)

■テーマ 21世紀への飛躍

■応募作品

- ・具象的な野外彫刻のためのエスキース
- ・1984年12月以降の制作による未発表の作品
- ・規模は、1m立方以内、重さ2t以内、素材不問

■大賞＝6点以内(副賞各70万円)、入選＝点数未定

■審査及び入選

- ・大賞作の中から、アンテートによる彫刻の美を顕著しな作品を選定し、赤土千鶴氏が賞状をもって制作を依頼し、青葉の森公園に設置する予定です。

■作品展示 1987年7月4日土～7月5日土 10時～18時
(観覧場所＝千葉県立美術館)

青葉の森公園平面図

彫刻の広場設置図

●主催／千葉県・千葉県教育委員会 ●運営／現代日本具象彫刻展実行委員会

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名
招待作家	
柳 原 義 達	犬 の 唄
鈴木 実 実	私自身の肖像 87 - 1
大 賞	
浦 野 八重子	生 き る と い う こ と
後 藤 良 二	森 の 番 人
佐 々 木 実	I Love You
関 正 司	A T H E N A
中 嶋 登茂美	か く れ ん ぼ
山 崎 猛	女 の 門
入 選	
島 根 紹	「息をせずに生きる方法について」シリーズNo.78 蜚蜚の柱
吉 田 隆	A R P A - 星 へ の 帰 還
梶 本 良 衛	ワ ・ タ ・ シ
小 川 清 彦	森の家族 - 巣立ち -
西 中 良 太	乳 母 車
播 間 公 次	み ち し る べ
山 根 淳 史	K A T A N A
堀 豊 之	つれづれなるままに…三姉妹
岡 弘 進	森 の 中 の 三 立 像
久 村 進	森 の 人
高 橋 秀 夫	咆 哮
中 村 宏	陽 光
竹 屋 修	ふ た り 雲
広 川 政 和	失 わ れ た 時 を 求 め て

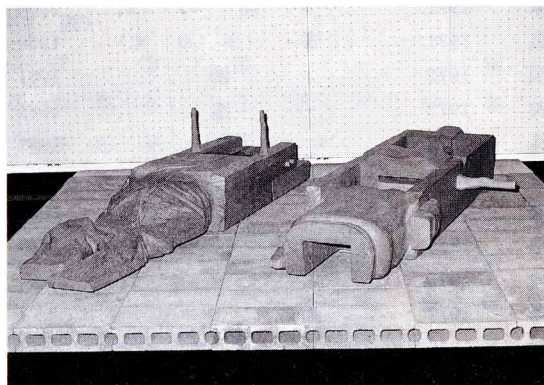
作 家 名	作 品 名
富 永 幸 彦	は ば た き
辻 忍	緑のトンネルの中で
加 藤 昭 男	鳥 を 呼 ぶ
堀 内 秀 雄	成 層 圏 へ
兼 原 啓 二	BACK TO THE SEA
今 野 勝 彦	朝
高 崎 哲	待 つ 人
葉 栗 剛	HUMAN-KI・DO・AI・RAKU
虎 竹 秀 芳	風 と 戯 る
酒 井 良	刻
岡 本 参千峯	鳥 た ち
本 田 悦 久	小 さ な 童 話
北 井 博 文	ピ エ ロ ・ 旅 立 ち
青 木 三 四 郎	つ が い
鈴 木 徹	望 郷
南 部 治 夫	時の流れに……(出会い)
中 村 義 孝	家 族
佐 藤 稔 宏	生成と風化一生きていると いうこと -
尾 崎 真	萌え出づる物達 (ワルツ)
高 野 佳 昌	対 話
中 川 ともみ	遙 か
田 宮 美 弘	双 曲 線
斎 藤 馨	翔 べ
高 橋 久美子	明 日 へ
片 桐 稔	母 と 子

作家名	作品名
鈴木 徹	対話—みずどり—
中野 滋	カントリー・ワルツ
長谷川 大治郎	大人と子供の為の立像
松本 雄治	母神と息子達
後藤 敏伸	翔 (SHOW) '87
小寺 真知子	希望の使者
成田 実智代	愚夢
原田 緑	はじまり
高杉 邦夫	風の音
平戸 美和子	のぞみ
横内 明美	L'espoir (れすぽあーる)
本木 孝雄	海
岩坂 登	ベンチになった女 ひと

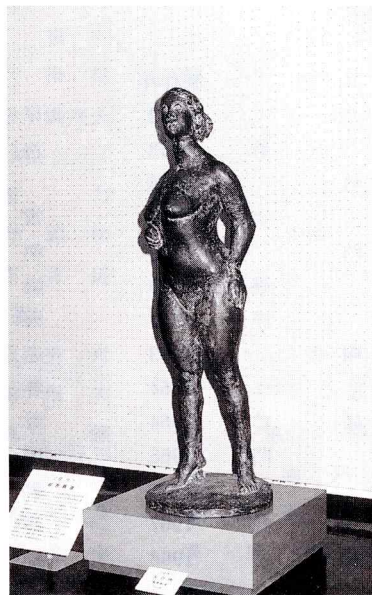
参考展示

第1回現代日本具象彫刻展 招待作家 (50音順)

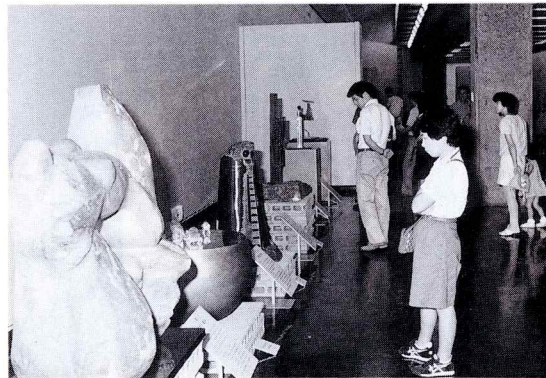
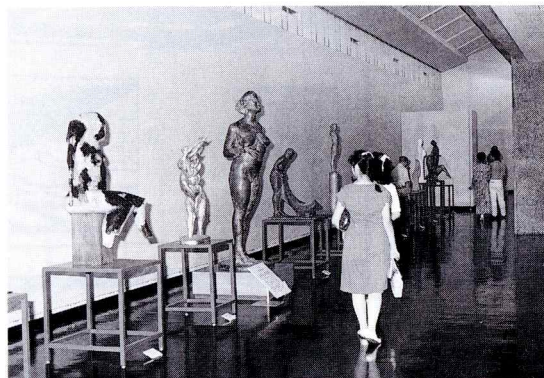
作家名	作品名
大須賀 力	倚る
神野 義衛	呻
北村 西望	人の天女
佐藤 忠良	二ラッブ
長谷川 昂	釈
舟越 保武	婦人
山本 正道	ヴァージニア
第1回現代日本具象彫刻展 大賞受賞作家 (50音順)	
梅原 正夫	なかよしむ
酒井 良	を刻 そう む
鈴木 徹 とおる	リッ そ ク
高田 大治	ラッ そ ク
三木 俊	北国からの男
六崎 敏	香風



招待作家 鈴木 実「私の肖像'87—1」



招待作家 柳原義達「犬の唄」



房総の美術家シリーズ-17-

青木 滋 芳 展

会 期 昭和62年 9月12日(土)~10月11日(日)
(26日間)

展示点数 41点

入場者数 22,450人

青木滋芳(大正3~昭和58)は、東京四谷に生まれ、7歳の時に一家を挙げて千葉に移住した。東京美術学校工芸部図案科で和田三造、広川松五郎に学び、染色工芸家としての道を歩むこととなった。第2回新文展に初入選し、以後日展を主舞台に活躍した。

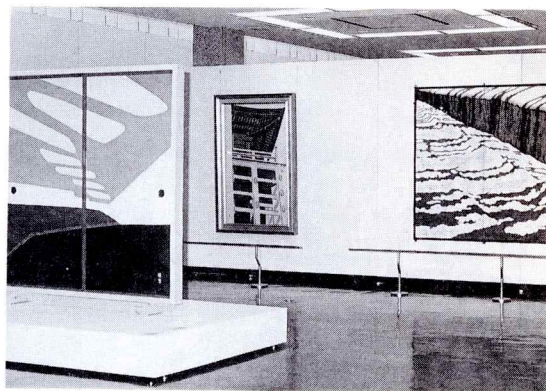
日展評議員、日本現代美術家協会顧問のほか、本県にあっては、千葉県美術会常任理事をつとめ、昭和52年には千葉県教育功労者(芸術文化)として表彰された。

本展覧会では、美しい自然と風景を染め上げた青木滋芳の、日展及び日本現代工芸展の出品作品を中心に遺作約40点を一堂に展覧し、その画業を回顧し、顕彰した。



出 品 目 録

作 品 名	制作年	作 品 名	制作年	作 品 名	制作年
池	1942	早瀬	1969	松島	1978
庭前小景	1943	古刹(笠森観音)	1969	PARED DE LADRILLO	1979
蛙	1946	寂	1970	島影	1979
山・水	1953	雪原	1971	公園の朝	1980
門	1959	朝風	1971	雪(奥日光)	1980
岩礁	1960	巖洞	1972	静	1981
望洋	1961	火口湖	1972	濠	1981
翔	1963	赤い郷土玩具	1973	峠	1982
入江	1964	春雪	1973	隠岐	1982
作品C	1964	雪の参道	1974	松	1982
洞門	1965	流水の港	1975	下関類	1983
蔵王	1966	雪(水上)	1975	スケッチ類	
海蝕	1967	黒潮	1977	画集	
朝	1968	好日	1978	『あなたの友達-虫と魚たち』	



第11回 千葉県移動美術館

会 場 ①印旛村中央公民館

②富津市富津公民館

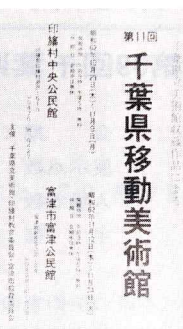
会 期 ①昭和62年10月29日(木)～11月9日(月) (12日間)

②昭和62年11月12日(木)～11月24日(火) (13日間)

展示点数 ①40点 ②40点

入場者数 ①1,511人 ②1,417人

館所蔵作品の移動展覧を行い、優れた美術作品を身近に鑑賞できる機会を提供した。



出 品 目 録

作 家 名	作 品 名
＜日本画＞	
富 取 風 堂	秋 の 草
島 多 訥 郎	秋 趣
立 石 春 美	狗
秋 葉 長 生	西 の 京
渡 辺 学	川 口
松 尾 敏 男	原 野
＜洋 画＞	
浅 井 忠	農 婦
都 鳥 英 喜	洛 北 の 早 春
石 井 柏 亭	信 州 風 景
霜 鳥 之 彦	緑 の ス ウ ェ ー タ ー
黒 田 重 太 郎	女 と 小 犬
安 井 曾 太 郎	熱 海 附 近
梅 原 龍 三 郎	竹 窓 読 書 図
田 中 善 之 助	パ リ の 女
原 勝 郎	モ ン マ ル ト ル
鶴 田 吾 郎	お 山 の 鈴 音
椿 貞 雄	鴨 図
中 西 利 雄	トリエール・シュール・セーヌ
不 破 章	二 女
小 堀 進	レ マ ン 湖 畔
笹 岡 了 一	秋 麗 芦 の 湖

作 家 名	作 品 名
＜版 画＞	
浜 口 陽 三	ピーマンのある静物
星 襄 一	王 の 樹
深 沢 幸 雄	掌 の 中 の 影
池 田 満 寿 夫	シンデレラの広告
＜彫 刻＞	
大 須 賀 力	倚 る
神 野 義 衛	呻
山 本 正 道	ウ ァ ー ジ ニ ア
＜工 芸＞	
香 取 秀 真	鳩 香 炉
津 田 信 夫	月 下 妖 麗
宮 之 原 謙	象 嵌 磁 鉢
土 肥 刀 泉	釉 彩 両 耳 花 瓶
香 取 正 彦	朧 銀 玉 錯 花 瓶
秋 山 逸 生	蝶 貝 象 嵌 箱
信 田 洋	装 瓶 (楼)
藤 田 喬 平	飾 宮 朱 雀
鈴 木 治 平	条 紋 金 彩 花 瓶
＜書＞	
浅 見 喜 舟	檣
大 石 隆 子	待 君
鈴 木 方 鶴	万 昌

県芸術祭

第39回千葉県美術展覧会

会 期 昭和62年10月24日(土)～11月15日(日)

展示点数 2,049点

入場者数 25,113人

主 催 千葉県美術会等

本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め郷土美術文化の振興と情操の純化に資することを目的として開催した。

() 内は38回展

	会員出品	公募出品	入選点数	陳列点数	新入選
日本画	90(94)	199(188)	156(167)	246(261)	19(59)
洋 画	194(193) (内遺作1)	658(618)	389(377)	583(570)	55(87)
彫 刻	58(57)	38(44)	33(42)	91(99)	9(15)
工 芸	63(66)	177(166)	122(121)	185(187)	31(29)
書 道	200(197)	995(1038)	744(745)	944(942)	123(171)
計	605(607) (内遺作1)	2067(2054)	1444(1452)	2049(2059)	237(361)

県展・美術を語る会

11月7日(土)午後1時～2時 美術館講堂

「私と彫刻」

講師 千葉県美術会常任理事 長谷川 昂

昭和62年度 千葉県高等学校総合芸術祭

美術工芸書道作品展

会 期 昭和62年11月18日(水)～11月29日(日)

入場者数 4,285人

主 催 千葉県高等学校総合芸術祭実行委員会等

千葉県高等学校における美術・工芸・書道の授業及び部活動の平素の姿を紹介し、生徒の教材として、また教師の指導の研究材料として役立てるとともに、広く一般社会に対して現在の千葉県高等学校美術・工芸・書道教育についての理解と認識を深めることを目的として開催した。

参加校

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	129 校	110 校	239 校
教 員	110 校	13 校	123 校
計	239 校	123 校	362 校

応募(展示)点数

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	703 点	766 点	1469点
教 員	122 点	14 点	136点
計	825 点	780 点	1605点



千葉県高等学校総合芸術祭



第34回 千葉県勤労者美術展

会 期 昭和62年 9 月22日(火)～ 9 月27日(日)
 展示点数 220点
 入場者数 2,094人
 主 催 千葉県労働者福祉協議会等

勤労者が余暇を利用して創作した美術作品（洋画・書道・写真）を発表する場を提供することにより、勤労者の教養を高め、文化の向上を図ることを目的として開催した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
144 人	220 点	144 人	220 点	220 点

第37回 千葉デザイン展

会 期 昭和62年 9 月22日(火)～ 9 月27日(日)
 展示点数 48点
 入場者数 1,663人
 主 催 千葉商業美術協会等

商業デザインの作品を公募し展示することにより、県内デザイン
 の質的向上と量的拡大を図るとともに、県内におけるデザイン志向
 者の育成を図ることを目的として開催した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
81人	102点	33人	48点	48点



第10回 千葉県写真展

会 期 昭和62年 9 月15日(火)～ 9 月27日(日)
 展示点数 150点
 入場者数 4,500人
 主 催 千葉県写真家協会・全千葉県写真連盟等

写真を通じて、本県の写真文化向上に資するために、広く県民から作品を公募し、本県の観光、風俗、文化を
 紹介する目的で開催した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
231 人	463 点	112 人	122 点	151 点

団 体 展

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第 13 回 武 蔵 野 美 術 大 学 校 友 会 千 葉 県 支 部 展	4. 7 ~ 4. 12	油彩画・水彩画、デザイン・工芸	64
エ テ ロ ク リ ッ ト '87	4. 7 ~ 4. 12	絵 画 ・ 立 体	28
第 24 回 全 日 本 総 合 書 道 大 展 覧 会	4. 14 ~ 4. 19	書	1,250
第 13 回 猿 展	4. 21 ~ 4. 26	絵 画 ・ 写 真 ・ 工 芸	67
第 7 回 千 葉 美 術 工 芸 展	4. 21 ~ 5. 3	工 芸	75
第 13 回 歩 会 彫 刻 展	4. 21 ~ 5. 3	彫 刻	64
第 18 回 表 美 展	4. 28 ~ 5. 3	表 装 ・ 額 装 ・ 屏 風	95
第 14 回 千 葉 新 協 展	4. 28 ~ 5. 3	油 彩 画	74
第27回白扇書道会展・全国学生書道展	5. 5 ~ 5. 10	書	3,277
第 32 回 二 科 会 千 葉 支 部 展	5. 12 ~ 5. 17	油 彩 画	121
千 葉 二 紀 会 展	5. 12 ~ 5. 17	油 彩 画 ・ 彫 刻	45
第 11 回 墨 の 県 展	5. 19 ~ 5. 24	水 墨 画	454
第 11 回 鳳 聲 会 書 作 展	5. 26 ~ 5. 31	書	70
第 10 回 千 葉 一 陽 展	5. 26 ~ 5. 31	油 彩 画	70
第27回千葉市アマチュア美術展覧会	5. 26 ~ 5. 31	絵画・彫刻・工芸・書・写真	476
第 12 回 関 東 全 展	6. 2 ~ 6. 7	日 本 画 ・ 油 彩 画	174
第 14 回 千 虹 会 日 本 画 展	6. 2 ~ 6. 7	日 本 画	35
第19回千葉市水墨画同好会連合展	6. 9 ~ 6. 21	水 墨 画	541
新 槐 樹 社 千 葉 県 支 部 展	6. 23 ~ 6. 28	油 彩 画 ・ 彫 刻	73
第 5 回 明 日 を 拓 く 教 育 美 術 展	6. 23 ~ 6. 28	油 彩 画 ・ 水 彩 画 ・ 工 作	2,500

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	点字点数
第 2 回 日 本 画 四 季 展	6. 23～7. 5	日 本 画	71
第 10 回 精 鋭 展	6. 23～7. 5	油 彩 画 ・ 彫 刻	80
第23回千葉県小中養護学校 児童生徒書写展覧会	6. 30～7. 5	書	150
第63回習美会初夏大作展	6. 30～7. 5	日本画・油彩画・水墨画	115
千葉県書道協会創立40周年 記念書道展覧会	7. 7～7. 19	書	512
第15回水彩連盟千葉支部展	7. 14～7. 19	水 彩 画	90
第8回龍峽書道会千葉県人展	7. 14～7. 19	書	510
第16回千葉市勤労者文化展	7. 14～7. 19	絵 画 ・ 工 芸 ・ 書	111
第21回漱雲会全国書道展	7. 21～7. 26	書	820
第7回千葉サンケイ現代洋画展	7. 21～8. 2	油 彩 画 ・ 版 画	233
第7回中央美術協会千葉支部展	7. 28～8. 2	日 本 画 ・ 油 彩 画	38
日本水彩画会第3回千葉県支部展	8. 4～8. 9	水 彩 画	48
第16回写真千葉県展	8. 4～8. 16	写 真	220
第12回葉美会展	8. 4～8. 16	絵 画 ・ 版 画 ・ 写 真	90
第11回尽墨会書作展	8. 11～8. 23	書	30
第33回静雅書道会小中学部千葉地区展	8. 18～8. 23	書	158
第7回日本春秋書院千葉県書道連盟展	8. 18～8. 23	書	141
第17回いてふ会彫刻展	8. 18～8. 30	彫 刻	60
昭和62年度千葉市教職員美術展覧会	8. 25～8. 30	絵 画 ・ 彫 刻 の 工 芸 ・ 写 真	101
第6回刻字千葉展	8. 25～8. 30	刻 字	80

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
ダネラ・デコパージュ展覧会	9. 1～9. 6	工 芸	180
第 17 回 新 構 造 千 葉 支 部 展	9. 1～9. 6	絵 画 ・ 写 真	111
千 葉 等 迦 展	9. 15～9. 20	油 彩 画	57
第20回千葉県高等学校合同写真展	9. 15～9. 20	写 真	489
第25回新世紀美術協会千葉支部展	9. 15～9. 20	油 彩 画	73
第 3 回日本書道学会千葉県連合会書道展	9. 22～9. 27	書	271
昭和62年度第30回千葉市小中養護学校 児 童 生 徒 作 品 総 合 展 覧 会	9. 24～10. 4	図工美術・理科・家庭科作品	7,450
第 19 回 フ ァ ン シ ー 洋 画 展	10. 6～10. 11	油 彩 画	90
第14回文化書道千葉県連合会公募展覧会	10. 6～10. 11	書	808
第 7 回 二 科 会 写 真 部 千 葉 支 部 展	10. 6～10. 11	写 真	115
第 5 回 日 中 友 好 書 道 展 覧 会	10. 13～10. 18	書	1,750
第 32 回 こ ど も 県 展	12. 1～12. 13	絵 画	12,601
第 10 回 千 葉 展	12. 15～12. 25	絵 画 ・ 立 体	112
第 23 回 登 龍 社 宮 坂 会 書 初 展	1. 5～1. 10	書	519
第 17 回 千 葉 県 大 学 美 術 連 盟 展	1. 5～1. 10	絵 画 ・ 工 芸	120
第 5 回 明 る い 社 会 づ く り ポ ス タ ー コ ン ク ー ル 展 覧 会	1. 5～1. 10	ポ ス タ ー	1,250
千葉市観光絵画と写真コンクール	1. 12～1. 17	絵 画 ・ 写 真	361
今 日 の 美 術 を 考 え る 会 展	1. 12～1. 24	絵 画 ・ 立 体	30
第 5 回 千 葉 県 医 師 会 美 術 展	1. 19～1. 24	絵 画 ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真	130
第 15 回 千 葉 書 壇 秀 抜 ・ 新 進 展	1. 26～1. 31	書	410

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第 21 回 老 人 ク ラ ブ 会 員 作 品 展	1. 26～1. 31	絵画・彫刻・工芸・書・写真	385
群 鷗 書 人 展	2. 2～2. 7	書	69
第 3 回 書 星 選 抜 展	2. 2～2. 7	書	228
第40回千葉県小中高校書初展覧会	2. 2～2. 7	書	920
第 29 回 千 葉 市 立 小 中 養 護 学 校 児 童 生 徒 書 写 展 覧 会	2. 2～2. 7	書	1,546
昭 和 62 年 度 千 葉 大 学 教 育 学 部 美 術 科 卒 業 制 作 展	2. 9～2. 14	絵画・彫刻・デザイン・工芸	47
子 ど も 造 形 展	2. 9～2. 14	絵 画 ・ 工 芸	953
幕張北高校書道コース卒業制作展	2. 9～2. 14	書	95
第 22 回 千 葉 大 学 学 生 書 道 展	2. 9～2. 14	書	88
第 11 回 唱 和 会 書 展	2. 16～2. 21	書	62
和洋女子大学卒業展（雁鴻会書道展）	2. 16～2. 21	書	63
袖ヶ浦高校卒業書作展	2. 16～2. 21	書	146
第 13 回 千 葉 県 民 写 真 展	2. 16～2. 28	写 真	304
第 13 回 秋 耕 会 千 葉 支 部 展	2. 23～2. 28	絵 画	78
第 2 回 千 葉 敬 愛 書 道 展	2. 23～2. 28	書	74
第 9 回 親 子 絵 画 展	2. 23～2. 28	水 彩 画 ・ 油 彩 画	157
昭和62年度第19回千葉市民美術展覧会	3. 1～3. 21	日本画・洋画・彫塑・工芸・書 写真・グラフィックデザイン	1,176
第 35 回 書 星 会 教 育 部 展	3. 23～3. 27	書	1,422

教育・普及

美術講演会

(1) 旧大光コレクションと日本の名画

講師 埼玉県立近代美術館長 本間正義

期 日 昭和62年 5 月 23 日(土)

参加者 75人

大光コレクションは、長岡市の大光相互銀行が設立し、昭和39年にオープンした長岡現代美術館の重要なコレクションとして展示されていた。当時、私は東京国立近代美術館に勤めており、近代美術の展覧会をいくつか手がけていたが、試みに作品を借用する頻度による統計地図を作った。すると東京周辺、関西の次に新潟、山形、富山にコレクターが多かった。これは当時の美術館建設の状況と同じである。長岡市には明治時代から美術愛好会があり、中でも大光相互銀行の駒形十吉氏の名は知られていた。駒形氏はコレクションが増えるにしたがって美術館に展示し、多くの人に見せたいと思った。今までの美術館にない特色を出すため、国内外の現代美術に目をつけ、長岡現代美術館をたてた。まだ歴史的に評価の定まらない現代美術を専門とするのは難しいことであったが、その名は東京を中心とする美術界の識者に広まり、外国にも知られた。また、現代の世界美術を対象とする長岡現代美術館賞展を開き、公開審査を行って話題を呼んだ。

昭和43年に池袋西武で長岡現代美術館展を開き、内容の高さ、作品の選択の適切等が各界からの非常な賞賛を浴びた。東京国立近代美術館では近代美術史をここで新しく作るという息ごみで、無名の在野の作家も積極的に取り上げ、調査・評価をしていたが、比べると大光コレクションの収集と似ており、駒形氏の視野の高さを感じた。しかし、公的組織としてしっかりと運営しないと長続きしない。大光相互銀行事件により、大光コレクションは売りに出された。地元の要望により、新潟県は日本の近・現代美術を買った。残念なことに現代美術は分散しつつあるが、公的機関に吸収され、各美術館の適切なコレクションとなっているのは、むしろ結果として良いことであったか。美術館連絡協議会が共催する今回の展示会は各地を巡回し、このようなすばらしいコレクションが新潟県にあるということを多くの人に知ってもらうため企画された。



(2) ピカソー 愛と芸術

講師 美術評論家 瀬木慎一

期 日 昭和62年 8 月 29 日(土)

参加者 125人



ピカソーには4人の子どもがおり、マリーナは長男ポールの娘で直系にあたる。遺産相続では、アトリエに残された、油彩、パステル、素描、版画、彫刻、陶器、オブジェなど6～7万点に及ぶピカソーの作品から、マリーナが一番多く相続した。アトリエに残されたこれらの作品は、ピカソーが愛着があり手離さなかったもの、小さくて展覧会に向かないもの、実験的作品などである。ピカソーは死に臨んで不用なもの、好ましくないものを整理しなかったため、マリーナ・コレクションからピカソーの日々の生活や制作態度がそのままよくわかる。

ピカソーは晩年になって巨匠の地位を獲得した後も「作品にメタフィジックの部分欠如している」と批判された。しかし、批判があたればあたるほど、ピカソーの面目躍如というところである。ピカソーは一貫してリアリスティックな画家であった。常に身の回りのもの、現実存在するものを描いて

いる。実際、抽象はピカソの内になく、ピカソは抽象を批判していた。人物もすべて身の周りの生きている人たちで、質量ともに題材として多いのは、身の周りの女性、特に妻や恋人など愛する女性である。その時一緒に生活している女性が、作品の中に一定期間持続して描かれる。フォルムがその女性と一致するのである。たいてい夜、人工照明の下、イメージーションの中で描くが、写実的なものは女性がそばにいる場合である。ピカソは70～80歳になって、ひたすら女性のヌードを描いた。エロスの追求は晩年の最大のテーマであった。

瀬木氏はピカソのアトリエを訪ねた時のエピソードをまじえて、スライドによりピカソの芸術に深く根をおろしている「愛」というテーマから作品をわかりやすく解説された。

美術を語る会

第1回 昭和62年6月20日(土)

話題提供者 跡見学園女子大学助教授

青木 茂

テーマ 明治洋画史料こぼれ話

参加者 78人

語る会第1回目は、開催中の「日本の名画100年」にちなんで、先ごろ、「明治洋画史料 記録編」の著作で芸術選奨文部大臣賞を受賞した青木茂氏を迎えた。そのユニークでかつ貴重な執筆活動の中で知り得た発見や、日ごろ感じている事などを氏独特のほのほのとした語り口で語られた。日本人が初めて石版画や石版・銅版の機械とかパノラマ等を見た記録の早いものを集めてみたり、その時、それがどの様なもので、どんな感じを受けたか等、目のつけ所が楽しい。

油絵の様なものの存在を知っていて描きたいと思いながら亡くなった人を知る限り集めた「洋風美術家詳伝」という本を題材に、実際にそういう人々を捜してみたら実在して、訪ねた方も訪ねられた人も喜んだ。

「フォンタネージと工部美術学校」という本を以前に作った。工部美術学校に入った人達の生徒列伝。その中に、黒田清輝や久米桂一郎が絵を描くきっかけとなった藤雅三の話もでてくる。が、本人の作品は、もうほとんどない。

本当に有名な人を追いかけるより、こういう事の方がおもしろい。そのかわり、あまり売れない。が、個人としては嬉しい。

こういう事をしたからと言って、日本がどうなるという事ではないが、全く予期しない所であたる喜びは、なかなか嬉しいもの。お金になるわけではないが、世の中、捨てたものでもないと思う。

第2回 昭和62年7月11日(土)

話題提供者 洋画家 高橋規矩治郎

テーマ 話題作にみる名画の影

参加者 28人

2組ずつの作品を比較しながら、作家とその作風形成のパターンについて話を進めた。

友人の画家達の制作の見習うべき点を中心に語る。

自分の見つけだした作家の影響を知らず知らずのうちに受け、自分のものにした人。実力がありながら、サロン芸術に背をむけ、絵描きとしての使命を追求している人。自己の姿勢を通すことで、精密画に新境地を開拓し、高い評価を得るに至った人など。

「まね」と「影響を受ける」ことの違い

全く同じ絵しかかけないのは、気の毒な精神状態。またへたな人は模写したつもりでも模写にならない。自己流一辺倒よりは、折々に、いつのまにか誰かの影響を受けて、それが画面に表れて、人に指摘されるようになった人は才能がある。影響を受けることをまねというのは残酷であり、絵かきの活動と影響を受けることは切り離せない。

誰が見ても色刷りをそばにおいて模写したような絵が高い評価を受けている事について現在の展覧会の体質に問題がある。大規模な展覧会ほど、高齢の人達が支配している。その人達は、芸術はこうであるという、自分の培った技量・世界観・制作の姿勢に固執してしまう傾向がある。自分より何世代も若い作家や新しく台頭したパターンについてもっと関心を持ってほしい。そうでないと若い絵かきの間で人気作家を模写しても見破れない。本当の模写は、制作に行きづまった時、自分の美意識を耕したり、本物を見られない人へのサービス精神などで行うものではないか。

第3回 昭和62年8月22日(土)

話題提供者 彫刻家 関 正司

テーマ 私の制作について

参加者 22人

第2回現代日本具象彫刻展にちなんで、大賞受賞者の一人、関氏に聞く。

鉄のガス溶接から、ステンレス・アルミ・チタン等に制作範囲を広げる。金属を選んだのは、金属のやりがきだから。素材とのフィーリングがあった。石膏の様にどうにでもなる素材が好きではない。金属も物によって個性は様々。

動きについて考えていきたい。風などで自然に動くもの、動力で定期的に動くものとは同じ動きでも違う。これまでの具象彫刻は、直立していて見せ場がある。動く彫刻になると、自分が見て欲しくないところ

も見られる。人間は、恥ずかしい部分や活躍する部分があったりとか様々な面を持つ。そういう彫刻があってもいいんじゃないか。動きでも自然の動きの方が好き。岡の上に雲がぽかっと浮かんでいる状態を見ると、自然とその雲の形が変わっていく。その様な状態を形にしたい。

今、具象の中でも、写実的なもの、そうでないものといろいろ分かれている。彫刻の範囲を逸脱しているものも多い。作家がどう考えているか、見る側がどう見るかで同じ作品でも全然違ってくる。展覧会なら審査員の意志によっても違ってくる。大きな作品を作っても賞をとらないと全て出費で終わってしまう。それがたび重なると精神面でまいてしまう等、彫刻制作の魅力について多方面からうかがうことができた。

第4回 昭和62年9月5日(土)

話題提供者 版画家 牛玖健治

テーマ ピカソは現代をどう考えるか

参加者 62人

50年間、一日もピカソを忘れた事がないという大のピカソファンの氏の話は、同じ芸術家として、また画商としての経験も通して、興味深く、説得力のあるものであった。

話は、ピカソが初めて出版した画集を手に入れた時のエピソードに始まり、スライドを通してピカソの技法(作品制作の過程)の解説。各作品の鑑賞法についても作家独自のユニークで愛情にあふれたものがあった。

質問が多く、本館で開催中のマリナーコレクションによるピカソ展と他の美術館での展示作品の違いは何か。とか、ピカソの絵がわからないと人に言われた時、どう説明すればよいか。ピカソの絵は児童画とどう違うのか。等の問いに対し、牛玖氏は、「あなたは どう思いますか。」と逆に問いかけ、対談の中で、本当に良いものとは、どの様なものか。何のために人は作品を作るのか、といった人間の永遠の課題にまで至った。

氏の言葉の中で印象深かったのは、本当に良いものは、あたたかくて脈うっているということ。人は本物を追求するため制作する。いろいろな角度から本物を追求するのが良いという事など。

またマリナーコレクションは、ピカソが、その思いつきや思考錯誤の過程、人に見せたくなかったり、売りたいなくて手元に残したものであり、商品ではなく舞台裏として、高い価値のあるものであると解説した。

ピカソに関するほほえましい裏話も聞かれ、本には書いてない事を語り合おうといった氏の最初の言葉どおりの語る会となった。

第5回 昭和62年10月3日(土)

話題提供者 彫刻家 青木三四郎

テーマ 父・滋芳の思い出

参加者 52名人

父は弟子をとらず、作品を制作する時は母の手助けをかりた。母は作品を作る段どりなどの話し相手となり、いわば二人三脚で制作をしていたので、作品一つ一つに父と同じ体験をし、思い出を持っている。スライドで作品をみながら、母の話を中心にお話したい。「キャベツと蓮根」は、蓮根が時期はずれのため、親切な八百屋さんが産地まで行って入手してくれた。日展特選となった。

「縞のある多角形」は、現代工芸美術家協会が設立されたのを機会に斬新な作品をだそうという方針で、その第1回展に出品した作品。構成が角ばっているの、マチエールを柔らげるためにつむぎをつかっている。

「雪原」は日光東照宮に取材。参道の杉木立の影を描いている。広がりのある画面に仕上がった。日展で内閣総理大臣賞を受賞した。「黒潮」は鶴原理想郷に取材。一番奥の断崖は現実と違って制作している。

「松」は日本現代工芸美術展に出品した最後の作品。松の形が一番好きであった。父が作品をみたのは、経師屋さんにまかせた時が最後となった。作品は秋に戻ってきた。

代表的作品の他、卒業制作の絵やデザインを手がけた暖簾、旗などをスライドで紹介し、青木滋芳氏の人となりや制作の苦労話などを出席者と語り合った。

第6回 昭和62年11月21日(土)

話題提供者 久保田倭通

テーマ 彫刻制作の現場—粘土から鋳造まで—

参加者 34人

思想や宗教を伝えるために、彫刻は始まったと思う。つまりそういう意味で文学や音楽と同じく彫刻も今までできたのではないかと思う。自分の感情をいかに、どういった形で、自分の表現として他人に伝えるかということを考えて作品を作ってほしい。

美術館の仲介で制作した東金の警察学校の銅像「信頼の絆」を制作する過程と、その苦心について語る。

「遙かなる海」という作品で、石膏成形の仕方について、また別の作品で、裸婦の原型から鋳造する過程を説明。

「信頼の絆」について、どのくらいの期間でできたか。何に一番時間がかかったか。鋳造の型は、幾つに割ればよいか。鋳造は見る事ができるのか。等、多くの質問がでる。

スライドで素材による表現の違いについて考える。

今回の具象彫刻展で、材料や制作方法の違うものを抜出し、それらについて語る。テラコッタの扱い方、乾漆の方法について、鋳造に代わる方法について等の質問から、木彫の野外展示について、彫刻の見方、彫刻と絵画のデッサンの違い等、実際に制作を試みる人たちの知識欲を強くうかがわせる語会となった。

第7回 昭和62年12月12日(土)

話題提供者 書家 種谷扇舟

テーマ 中国 書の旅

参加者 72人

種谷氏は今までに34回、中国を旅したという。話しは、中国のあこがれの名蹟碑をひとめ見たいと、山東省・河南省・陝西省等の古い土地の、高くそびえたつ山々をめざした氏の経験の深さを物語るものであった。

もし行くとしたら、どこへどの様に行くときよい。見どころはどこか。といった事に始まり、世界中に二つしかないという化石博物館の事や、石碑を集めて作った石林、寺がなくても、岩に寺と書いてあって、頭に寺を思い浮かべる所とか、天柱山・雲峰山・太基山百峰山の四つの名山のそれぞれの山の雰囲気や造型、土質、歴史、土地の人々との対話など、目の前に風景が展開しているかの様に、情景の浮かんでくる話だった。

道教を学ぶ人々は、修業するために、山全体を教室と考えたという。氏も今まで日本で学んできた書や書家や儒教の精神を、実際に、中国の彼の地の山の頂上に登りつめ、石碑としてまのあたりにして、拓本に写しとる事で、書家としての修業を重ねている。

質問には、日本と中国の紙や墨の違い。道教と仏教の違い、文字の簡略化について等、様々あった。

第8回 昭和62年12月19日(土)

話題提供者 陶芸家 神谷紀雄

テーマ もてなしの器

参加者 38人

「もてなし」を漢字にあてると「持成し」。心をこめてもてなす、大事に扱う器ということで、陶磁器の話しをしたい。陶磁器といっても、陶器、磁器、炆器、土器に分けられ、それぞれ素材の違いなどにより、吸水性のあるもの、ないもの、暖かみのあるもの、冷たく感じられるものなど性格が様々である。これらの性格をのみ込み、四季の特性を生かして扱うことが大事である。私は釉裏紅という赤い彩色をするが、夏は淡く涼しげな赤に、冬はきつい赤になる。玄関に季節の花を飾って来客をもてなすように、器にも気配りをする。ものをつくるには、何をつくるかというテーマをはっきりさせ、こだわりをもつことが必要である。人

を迎える時も何の器でもてなすか、こだわりをもつと一日一日が楽しくなるだろう。

また、いかに自分なりの器を見つけるか、今の時代に合う器をつくるか考えている。常に新鮮で感動を与えるものでないかいいものといえない。私は「らしさ」という言葉が好きで、「神谷らしさ」が皆さんの心を少しでも動かせたらと思っている。

この他、焼きものの歴史や技法など実物を手にとって説明され、参加者からは自分の陶芸体験に基づく熱心な質問が続いた。

第9回 昭和63年1月23日(土)

話題提供者 版画家 鶴岡 洋

テーマ 版画と私—銅版画の表現を主として—

参加者 20人

高校時代、銅版画家の深沢幸雄氏に出合い、版画にひかれたこと。洋画を志した大学時代に、展覧会出品作を上野に運んだ時の大変だった思い出話。その後も一度、版画を想起したことなどの思い出を聞く。

美しい花を見て、描きたいと思う事もある。が、詩とか小説を読んだり、音楽を聞いたりする中で、それを受けとめて自分なりの形として表現したいと思った。表現への意欲というものは、物を見た時に視覚的に感じるものがあって表現したいというのと、心情的に感じるものがあってそれを表わしたいというのと二通りあると思うが自分の場合は後者の方が多い。目の前に見えるものをそのまま描くより、自分の心で受けとめたい。自分の考え方、生き方、人間の生き方の真実はどこにあるのか、本当の美しさは何か。等、考えて行きたい。それらをどう表現したらいいのか。氏の課題である。

スライドで、牛玖健治、池田満寿夫、深沢幸雄、浜口陽三各氏の作品を、そのそれぞれの心象風景の表現とそれぞれが用いている銅版画の技法について、実践的にこまやかな説明を聞く。

その後星裏一氏の木版画や鶴岡氏自作の作品もスライドで見ながら、着想と技法の両面から話を聞く。鶴岡氏の作品は独特な一版多色刷り。

これらに対して印刷する紙は、どういうものを使うか。作家はだいたい何種類の方法を用いて制作するか。薬品の濃度は、どのくらいがいいのか。金属版には、どの様なものがあるのか。など、実制作への質問が付きなかった。

第10回 昭和63年2月13日(土)

話題提供者 日本画家 渡辺 学

テーマ 漁場一筋に40年

参加者 37人

渡辺学とはどんな絵を描いているのか、東京美術学校在学中から現在に至るまでの作品を何点か選んでスライドで紹介したい。現代の日本画とはどういうものか。昔の掛軸とは随分違う、油彩と変わらないという人も多い。日本画と油絵の違いは、素材などの違いであって、何をいようと描く世界が変わるわけではない。現代を絵かきが自分の心に写しとって描いたなら、それが絵である。

「ある駅」は美校本科1年に、学校のコンクールで1席をとった作品。絵が好きで美校に入ったが、絵かきになろうと思っていなかった。これで自信を持った。

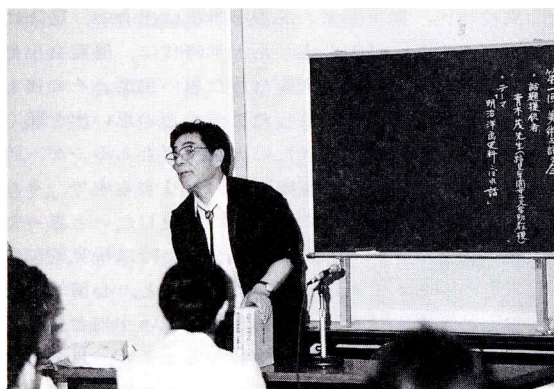
「黒潮」は制作中、構成的になってきたと自分でも

わかった。線を入れるときゅっと絵がしまっていく。線にのめり込んでいく。

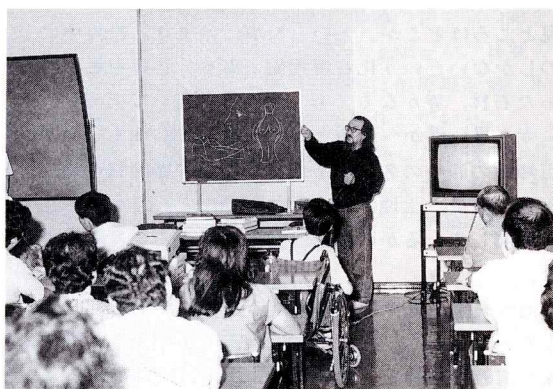
「夜」には内面の冷たい、いじけた面が表われている。子供のころにうっせきしたものが暗いイメージとなってできている。タイルの金箔は新しい表現技術の獲得となった。

「地熱」は美術評論家の坂崎乙郎氏に、日本で初めて幻想的な絵ができたといわれた作品。

約40点の作品をスライドでみながら、ユーモアを混じえ、客観的に自作を批評、分析された。氏の作品や制作態度を理解する良い機会となった。



第1回 青木茂講師



第4回 牛玖健治講師



第7回 種谷扇舟講師



第10回 渡辺学講師

実 技 講 座

(1) 日本画講座

期 日 昭和63年 1月26日(火)・27日(水)・28日(木)・2月2日(火)・3日(水)・5日(金)・6日(土)・7日(日)・9日(火)・10日(水)

(10日間／うち講師指導日数7日間)

講 師 県美術会常任理事 齊藤 惇

受講者数 20人

内 容 経験者を対象として、各自が日ごろ制作したスケッチの中から、花・くだもの・人物・風景等自由なモチーフにより、20号の作品を制作した。同時に絵の具・にかわ・筆・紙等の材料・用具の取り扱い方など基礎的な学習を行った。

(2) 洋画講座

期 日 第1期 昭和62年 5月27日(水)・28日(木)・29日(金)・30日(土)・6月2日(火)・3日(水)・4日(木)・5日(金)・9日(火)・10日(水)・11日(木)・12日(金)

第2期 昭和62年 8月25日(火)・26日(水)・27日(木)・28日(金)・9月1日(火)・2日(水)・3日(木)・4日(金)・16日(水)・17日(木)・18日(金)・19日(土)

第3期 昭和63年 1月28日(木)・29日(金)・30日(土)・31日(日)・2月4日(木)・5日(金)・6日(土)・7日(日)・10日(水)・11日(木)・12日(金)・13日(土)

(各12日間／うち講師指導日数は各6日間)

講 師 第1期 県美術会理事 伊牟田経正

第2期 千葉大学教授 太田洋三

第3期 県美術会常任理事 小林 数

受講者数 第1期 33人

第2期 40人

第3期 35人

内 容 経験者を対象として、第1期と第2期は、ヌード・コスチューム・静物を、第3期は、静物・風景・コスチュームをモチーフとして、デッサン、構図、彩色などをはじめ、より幅広い表現について学習した。



(3) デッサン講座

期 日 第1期 昭和62年 7月16日(木)・17日(金)・18日(土)・19日(日)・23日(木)・24日(金)・25日(土)・26日(日)

第2期 昭和62年 9月22日(火)・23日(水)・24日(木)・25日(金)・29日(火)・30日(水)・10月1日(木)・2日(金)

(各8日間／受講者の自主研修講座)

受講者数 第1期 21人

第2期 23人

内 容 一般を対象として、第1期は、石こう・コスチュームを、第2期は、静物・コスチューム・石こうのデッサンをし、形のとり方、明暗、立体感など基礎的な学習をした。

(4) 版画講座

期 日 昭和62年 7月25日(土)・26日(日)・28日(火)・29日(水)・31日(金)・8月1日(土)・2日(日)・4日(火)・5日(水)・7日(金)・8日(土)・9日(日)

(12日間／うち講師指導日数7日間)

講 師 国画会会員 平野正房

受講者数 15人

内 容 経験者を対象として、銅版画を通して、材料や用具の取り扱い方、エッチングやアクアチントなどの各技法、更に刷りの技法について学習した。

(5) 彫刻講座

期 日 昭和62年 6月3日(木)・4日(木)・5日(金)・9日(火)・10日(水)・11日(木)・12日(金)・17日(水)・18日(木)・19(金)
(10日間／うち講師指導日数7日間)

講 師 県美術会常任理事 久保田俣通

受講者数 18人

内 容 経験者を対象として、木彫の制作を通して、レリーフ・丸彫り・お面など立体の表現方法、更に用具の取り扱い方を学習した。

(6) 陶芸講座

期 日 第1期 昭和62年 5月7日(木)・9日(土)・26日(火)・28日(木)・30日(土)・6月26日(金)・7月1日(水)・3日(金)・21日(火)・8月11日(火)

第2期 昭和62年10月24日(土)・27日(火)・11月13日(金)・25日(水)・27日(金)・12月11日(金)・16日(水)・18日(金)
昭和63年 1月16日(土)・29日(金)

(各10日間／うち講師指導日数は各6日間)

講 師 第1期 県美術会常任理事 横山光ノ介

第2期 県美術会常任理事 神谷紀雄

受講者数 第1期 32人

第2期 34人

内 容 経験者を対象として、第1期は蓋もの、高坏など、第2期は自由テーマで各3回ずつ、土、ロクロ、窯詰め、施釉、焼成等について学習した。

(7) 書芸講座

期 日 第1期 昭和62年 6月16日(火)・17日(水)・18日(木)・19日(金)

第2期 昭和62年 7月29日(水)・30日(木)・8月1日(土)・2日(日)

第3期 昭和62年12月10日(水)・11日(金)・17日(水)・18日(金)

(各4日間／うち講師指導日数は各3日間)

講 師 第1期 県美術会理事 高木東扇

第2期 県美術会常任理事 千代倉桜舟

第3期 県美術会常任理事 浅見錦龍

受講者数 第1期 24人

第2期 24人

第3期 25人

内 容 経験者を対象として、第1期はかな、第2期は近代詩文書、第3期は漢字を中心に様々な表現について学習した。



日本画講座



陶芸講座

千葉県立美術館友の会（葉美会）

1. 運営方針

- (1) “みる・かたる・つくる” 美術館活動に積極的に参加する。
- (2) 組織の拡充と活動の充実をはかる。

2. 組 織

(1) 会員数 個人会員904名 賛助会員9名

(2) 役 員

顧問 始関 妙

名誉会員 松戸節三 市原正夫 高橋在久 平野 馨

会 長 鈴木民三

副会長 江尻幹雄 新城瑠璃 藤川 昶

監 事 小室守一 三宅寿美子 高石 卓

理 事 安田博亮 押尾禎一 平野元三郎 大藤敬美 石井秀雄

青木 了 中村幸子 大里 功 松本 衛 足立 堯

長倉忠勝 鈴木豊志夫 中村 哲 高林照夫

評 議 員 高橋喜一郎 芳垣良一郎 木内俊雄 西田 葆 藍野正和

植木 照 広瀬慶子 花田之宏 渡辺美智子 林美貴枝

酒井千代子 近藤愛子 佐藤裕子 今井忠昭

3. 事 業

(1) 友の会だより “しおさい” の発行、年4回。各1000部印刷し、会員等に配布した。

(2) 第12回葉美会展の開催

会 期 昭和62年8月4日(火)～8月16日(日)

出 品 者 52人 展示点数 90点

合 評 会 昭和62年8月16日(日) 講師に篠崎輝夫先生を迎えた。

葉美会展は友の会会員が作品を発表し、お互いの作品を鑑賞しながら語り合うことにより、創作の楽しみを分かち合い、会員相互の親睦を深める機会とした。

(3) 館事業への協力

館に協力して、美術鑑賞の旅や特別展解説ボランティアを実施したほか、講演会・語る会・実技講座など県民アトリエ事業に積極的に参加した。

4. 美術鑑賞の旅

美術作品や文化財を訪ねながら、美を^み観る眼を養うことを目的に美術鑑賞の旅を行った。

(1) 春の美術鑑賞の旅

期 日 昭和62年7月3日(金)

参加者数 43人

雨天の一日であったが、神奈川県立博物館と開館間もない世田谷区立世田谷美術館、町田市立国際版画美術館を訪れた。世田谷美術館では「白と黒の会展」、国際版画美術館では「パリ国立図書館所蔵フランスの版画16～19世紀」を鑑賞した。

(2) 秋の美術鑑賞の旅

期 日 昭和62年10月14日(木)～15日(木)

参加者数 30人

秋晴れの2日間、信州の美術館を訪れた。軽井沢高輪美術館では現代美術を鑑賞し、美ヶ原高原美術館ではアルプスの山々を背景にした彫刻群の中を散策した。マリー・ローランサン美術館では女性らしい優美な作品をたんのうした。素晴らしい美術作品と紅葉した山々の自然美とを十分に満喫した旅だった。

5. 友の会実技講座

(1)日本画入門講座

期 日 昭和62年 5月14日(木)・15日(金)・16日(土)・17日(日)・22日(金)・23日(土)・24日(日) 7日間

講 師 県美術会理事 宮沢一雅

受講者数 25人

内 容 花、くだもの、野菜等を描き、用具の取り扱い方等日本画の基礎的な技法について学習した。

(2)洋画入門講座

期 日 第1期 昭和62年 4月18日(土)・19日(日)・22日(水)・23日(木)・25日(土)・26日(日) 6日間

第2期 昭和62年 7月2日(木)・4日(土)・5日(日)・7日(火)・8日(水)・9日(木) 6日間

第3期 昭和62年11月28日(土)・29日(日)・12月1日(火)・2日(水)・4日(金)・5日(土) 6日間

講 師 第1期 県美術会会員 松沢茂雄

第2期 県美術会常任理事 篠崎輝夫

第3期 県美術会理事 渡辺 普

受講者数 第1期 44人

第2期 54人

第3期 34人

内 容 第1期は静物と裸婦、第2期は裸婦、第3期は裸婦を題材とし、油彩画の制作を通して、洋画の基礎的な技法等について学習した。

(3)デッサン入門講座

期 日 第1期 昭和62年 5月8日(金)・9日(土)・10日(日) 3日間

第2期 昭和62年 8月7日(金)・8日(土)・9日(日) 3日間

講 師 第1期 県美術会理事 五十嵐光昭

第2期 千葉大学教授 戸田 健夫

受講者数 第1期 24人

第2期 32人

内 容 第1期は静物と人物、第2期は人物を題材とし、構図のとり方、立体感、空間感の表現法などデッサンの基本的な技法について学習した。

(4)版画入門講座

期 日 昭和63年 1月12日(火)・13日(水)・14日(木)・15日(金)・19日(火)・20日(水)・21日(木) 7日間

講 師 県美術会会員 坂戸武雄

受講者数 13人

内 容 銅版画を通して、用具の取り扱い方、エッチング・ドライポイントなど各種の技法、刷りの技法等銅版画の基礎的な内容について学習した。



洋画入門講座



デッサン入門講座

(5)彫塑入門講座

期 日 昭和62年11月11日(水)・12日(木)・15日(日)・18日(水)・19日(木)・20日(金)・21日(土) 7日間

講 師 県美術会常任理事 堀 豊之

受講者数 13人

内 容 人物をモデルに使い、ブロンズ粘土による首像を制作し、表現技法・用具の取り扱いなど彫塑の基礎について学習した。

(6)陶芸入門講座

期 日 昭和62年9月1日(火)・2日(水)・3日(木)・24日(木)・10月2日(金) 5日間

講 師 県美術会会員 鎗田和平

受講者数 29人

内 容 花瓶、カップ、皿等の制作を通して、手びねり・ロクロの成形技法、釉薬^{ゆうやく}の基礎的な知識など陶芸の基礎について学習した。

(7)金工入門講座

期 日 昭和62年11月3日(火)・4日(水)・5日(木)・6日(金)・7日(土) 5日間

講 師 日本クラフトデザイン協会会員 佐藤叔孝

受講者数 8人

内 容 銅板を素材として、金属の特性を生かした鍛金の基礎的な技法をはじめ、着色の技法などについて学習した。

(8)七宝焼入門講座

期 日 昭和62年7月14日(火)・15日(水) 2日間

講 師 県美術会会員 市川寿賀子

受講者数 13人

内 容 ブローチ、ペンダント、壁掛などの制作を通して、七宝焼の材料や技法、更に焼成の方法について学習した。

(9)書芸入門講座

期 日 昭和63年1月19日(火)・26日(火)・2月2日(火)・9日(火)・16日(火) 5日間

講 師 県美術会理事 宇津木雀聲

受講者数 28人

内 容 楷書・行書・草書・かななど各書体の練習を通し、書芸の基礎的な学習をした。

(10)てん刻入門講座

期 日 昭和62年12月4日(金)・5日(土)・6日(日) 3日間

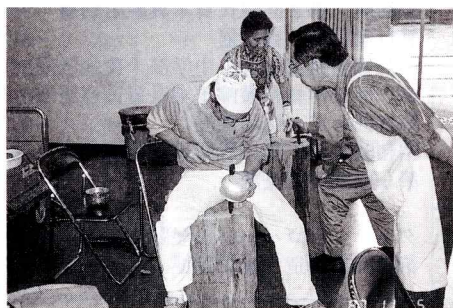
講 師 県美術会会員 鈴木知秋

受講者数 28人

内 容 自分の名前を印材に刻み、印刀などの用具の取り扱いについて、てん刻の基礎的な学習をした。



陶芸入門講座



金工入門講座

昭和62年度 事業一覧

月	み	る	か たる ・ つ く る
4	常設収蔵作品展(第Ⅰ期) 第13回武蔵野美術大学校友会千葉県支部展 エテロクリット'87 第24回全日本総合書道大展覧会 第13回猊展 第7回千葉美術工芸展 第13回歩会彫刻展 第18回表美展 第14回千葉新協展	(4/1～5/10) (4/7～4/12) (4/7～4/12) (4/14～4/19) (4/21～4/26) (4/21～5/3) (4/21～5/3) (4/28～5/3) (4/28～5/3)	⑦洋画入門(1)
5	第27回白扇書道会展・全国学生書道展 第32回二科会千葉支部展 千葉二紀会展 特別展「日本の名画100年」 第11回墨の県展 第11回鳳聲会書作展 第10回千葉一陽展 第27回千葉市アマチュア美術展覧会	(5/5～5/10) (5/12～5/17) (5/12～5/17) (5/16～6/21) (5/19～5/24) (5/26～5/31) (5/26～5/31) (5/26～5/31)	陶芸講座(1) ～8月 ⑦デッサン入門(1) 洋画講座(1) ⑦日本画入門 ②美術講演会(1) 5/23
6	第12回関東全展 第14回千虹会日本画展 第19回千葉市水墨画同好会連合展 新槐樹社千葉県支部展 第5回明日を拓く教育美術展 第2回日本画四季展 第10回精鋭展 第23回千葉県小中養護学校児童生徒書写展覧会 第63回習美会初夏大作展 常設収蔵作品展(第Ⅱ期)	(6/2～6/7) (6/2～6/7) (6/9～6/21) (6/23～6/28) (6/23～6/28) (6/23～7/5) (6/23～7/5) (6/30～7/5) (6/30～7/5) (6/30～8/2)	②美術を語る会(1) 6/20 彫刻講座 書芸講座(1)
7	千葉県書道協会創立40周年記念書道展覧会 第15回水彩連盟千葉支部展 第8回龍峽書道会千葉県入展 第16回千葉市勤労者文化展 第21回漱雲会全国書道展 第7回千葉サンケイ現代洋画展 第7回中央美術協会千葉支部展	(7/7～7/19) (7/14～7/19) (7/14～7/19) (7/14～7/19) (7/21～7/26) (7/21～8/2) (7/28～8/2)	②美術を語る会(2) 7/11 ⑦洋画入門(2) ⑦七宝焼入門 デッサン講座(1) 版画講座 書芸講座(2) ～8月
8	日本水彩画会第3回千葉県支部展 第16回写真千葉県展 第12回葉美会展 特別展「ピカソ展」 企画展 第2回現代日本具象彫刻展 第11回尽墨会書作展 第33回静雅書道会小中学部千葉地区展 第7回日本春秋書院千葉県書道連盟展 第17回いてふ会彫刻展 昭和62年度千葉市教職員美術展覧会 第6回刻字千葉展	(8/4～8/9) (8/4～8/16) (8/4～8/16) (8/7～9/6) (8/7～9/6) (8/11～8/23) (8/18～8/23) (8/18～8/23) (8/18～8/30) (8/25～8/30) (8/25～8/30)	⑦デッサン入門(2) 洋画講座(2) ～9月 ②美術を語る会(3) 8/22 ②美術講演会(2) 8/29
9	グネラ・デコパージュ展覧会 第17回新構造千葉支部展	(9/1～9/6) (9/1～9/6)	⑦陶芸入門 ～10月 ②美術を語る会(4) 9/5

月	み	る	か	た	る	・	つ	く	る	
9	企画展「青木滋芳展」 常設収蔵作品展(第Ⅲ期) 千葉等迦展 第20回千葉県高等学校合同写真展 第25回新世紀美術協会千葉支部展 昭和62年度千葉県芸術祭 千葉県写真展 第37回千葉デザイン展 第34回千葉県勤労者美術展 第3回日本書道学会千葉県連合会書道展 昭和62年度第30回千葉市小中養護学校児童生徒作品総合展覧会	(9/12～10/11) (9/12～10/18) (9/15～9/20) (9/15～9/20) (9/15～9/20) (9/15～9/27) (9/22～9/27) (9/22～9/27) (9/22～9/27) (9/24～10/4)						デッサン講座(2) ～10月		
10	第19回ファンシー洋画展 第14回文化書道千葉県連合会公募展覧会 第7回二科会写真部千葉支部展 第5回日中友好書道展覧会 第39回千葉県美術展覧会(県展) 第11回千葉県移動美術館(印旛村)	(10/6～10/11) (10/6～10/11) (10/6～10/11) (10/13～10/18) (10/24～11/15) (10/29～11/9)	■美術を語る会(5)	10/3				陶芸講座(2) ～1月		
11	第11回千葉県移動美術館(富津市) 千葉県高等学校総合芸術祭 美術・工芸・書道作品展	(11/12～11/24) (11/18～11/29)	㊦金工入門 ㊦彫刻入門 ㊦洋画入門(3)						～12月	
12	第32回こども県展 常設収蔵作品展(第Ⅳ期) 第10回千葉展	(12/1～12/13) (12/8～3/31) (12/15～12/25)	■美術を語る会(6) ■美術を語る会(7)	11/21 12/12					てん刻入門 書芸講座(3)	
1	第23回登龍社宮坂会書初展 第17回千葉県大学美術連盟展 第5回明るい社会づくりポスターコンクール展覧会 千葉市観光絵画と写真コンクール 今日の美術を考える会展 第5回千葉県医師会美術展 第15回千葉書壇秀抜・新進展 第21回老人クラブ会員作品展	(1/5～1/10) (1/5～1/10) (1/5～1/10) (1/12～1/17) (1/12～1/24) (1/19～1/24) (1/26～1/31) (1/26～1/31)	■美術を語る会(8)	12/19				㊦版画入門 ㊦書芸入門 ■美術を語る会(9)	1/23 洋画講座(3) ～2月	
2	群鷗書人展 第3回書星選抜展 第40回千葉県小中高校書初展覧会 第29回千葉市立小中養護学校児童生徒書写展覧会 昭和62年度千葉大学教育学部美術科卒業制作展 子ども造形展 幕張北高校書道コース卒業制作展 第22回千葉大学学生書道展 第11回唱和会書展 和洋女子大学卒業展(雁鴻会書道展) 袖ヶ浦高校卒業書作展 第13回千葉県民写真展 第13回秋耕会千葉支部展 第2回千葉敬愛書道展 第9回親子絵画展	(2/2～2/7) (2/2～2/7) (2/2～2/7) (2/2～2/7) (2/9～2/14) (2/9～2/14) (2/9～2/14) (2/9～2/14) (2/16～2/21) (2/16～2/21) (2/16～2/21) (2/16～2/28) (2/23～2/28) (2/23～2/28) (2/23～2/28)						日本画講座	■美術を語る会(10)	2/13
3	昭和62年度第19回千葉市民美術展覧会 第35回書星会教育部展	(3/1～3/21) (3/23～3/27)								

太字は本館の企画展

利用状況

昭和62年度入館者一覧

種別 月	開館 日数	個 人			団 体		体				人数合計	備 考
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数		
4	26	5,786	312	1,098	264	7	80	2	295	7	7,835	
5	28	19,056	840	4,272	392	12	41	1	338	5	24,939	} 特別展 「日本の名 画100年」
6	26	14,353	633	3,232	962	27	92	2	378	3	19,650	
7	27	9,166	468	1,336	471	11	24	1	185	4	11,650	
8	26	23,351	1,696	3,330	473	12	0	0	145	5	28,995	} 特別展 「ピカソ展」
9	22	15,617	910	1,877	603	14	201	3	338	2	19,546	
10	23	18,405	402	4,552	585	19	0	0	1,579	14	25,523	
11	24	17,189	1,276	2,080	642	18	240	1	575	6	22,002	
12	22	11,161	226	5,556	306	9	0	0	985	15	18,234	
1	24	9,858	350	1,461	482	16	22	1	145	2	12,318	
2	24	10,312	623	2,600	302	7	0	0	548	5	14,385	
3	27	10,309	559	2,005	238	7	0	0	44	1	13,155	
計	299	164,563	8,295	33,399	5,720	159	700	11	5,555	69	218,232	

開館以来 総開館日数 3,904日 総入館者数 2,149,895人

地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県 内		県 外		外国(人)
		千葉市(人)	県 内(人)	東京都(人)	他 県(人)	
4	26	3,667	3,435	371	360	2
5	28	12,517	11,182	583	652	5
6	26	8,855	9,972	485	333	5
7	27	5,261	5,411	449	405	124
8	26	13,311	13,809	929	935	11
9	22	9,486	9,078	529	449	4
10	23	14,927	9,795	397	387	17
11	24	11,320	9,832	383	463	4
12	22	4,313	13,544	208	161	8
1	24	5,430	6,195	363	330	0
2	24	7,744	5,713	441	474	13
3	27	6,808	5,272	473	592	10
計	299	103,639	103,238	5,611	5,541	203
累計		206,877		11,152		203

作品貸出一覧

作家名	作 品 名	出 陳 展 覧 会 名	会 期 ・ 展 示 会 場	貸 出 先
白滝幾之助 " " 石井 柏亭 加藤源之助 中林 儒 長谷川良雄 中西 利雄 " " 後藤 工志 石川欽一郎	伊 国 ア シ シ 海 伊 国 ナ ポ リ 病 児 秋の山(大和初瀬村) け し の 花 晩 秋 南 仏 風 景 四 人 の 女 タ リ ア 水 辺	ー水と光との出会いー近代日本水彩画の展開	62.4.11～5.10 福島県立美術館	福島県立美術館
鈴木 方鶴	万 昌	鈴木方鶴遺墨展	62.4.30～5.5 朝日生命ギャラリー	鈴木方鶴遺墨展実行委員会
不破 章	台 湾 の 農 家	75周年記念日本水彩展	62.6.1～6.10 東京都美術館	不破クラ
秋山 逸生	蝶 貝 象 嵌 箱	特別展「近代日本の木工芸」展	62.6.9～7.26 東京国立近代美術館 工芸館	東京国立近代美術館
浅井 忠	藁 屋 根	特別展「日本画と洋画ー新しい刺激と伝統の革新」	62.7.4～8.23 山種美術館 後期(62.7.29～8.23)	山種美術館
浅見 喜舟 浅井 忠 石井 雙石 江川 碧潭 香取 秀真 小安 花邨 鱸 松塘 高宮 金陵 梁川 星巖 中台 邱園	千 字 文 状 書 林 鳥 相 忘 不 避 人 龍 溪 山 片 貝 浜 の 歌 パイロンの言葉 五 言 絶 句 (A) 山 部 赤 人 歌 浪 淘 集 盧 綸 詩	創立40周年千葉県書道協会記念展 遺墨展	62.7.7～7.19 千葉県立美術館	高澤南総
菱川 師宣 " "	大 和 武 者 絵 諸国名所歌物語(上)	師宣絵本展	62.7.20～8.19 菱川師宣記念館	菱川師宣記念館
椿 貞雄	自 画 像	特別展「高須光治と草土社」	62.7.25～8.16 豊橋市美術博物館	豊橋市教育委員会
秋山 逸生	蝶 貝 象 嵌 箱	特別展「木工芸ー明治から現代まで」	62.8.15～9.23 佐野美術館	佐野美術館
椿 貞雄 " " " " " " " " " " " "	自 画 像 横 堀 角 次 郎 兄 像 八 重 子 像 ア ン ド レ 裸 体 鋸山から見た房総半島 老 政 治 家 の 像 春夏秋冬図屏風の内(春) お こ ぜ	椿貞雄展	62.9.18～10.7 船橋・西武美術館	椿貞雄展実行委員会
石井 柏亭 都鳥 英喜 和田 英作	病 の 児 男 の 顔 塚 本 靖 肖 像	明治洋画壇の巨匠たちー日本のアカデミズムの形成ー	62.9.19～10.18 板橋区立美術館	板橋区立美術館
石井 柏亭 " "	老 太 々 聖フランチェスコ寺院	開館5周年記念展「日本洋画の青春ー大正の光と影ー」	62.9.25～10.25 岐阜県美術館	岐阜県美術館
鈴木 治平	湿 原 の 詩	東京芸術大学創立百周年記念展 (現職教官展)	62.10.2～10.20 有楽町・西武アート・フォーラム	朝日新聞社
鶴田 吾郎	初 秋	静岡の美術 I 曾宮一念展	62.10.2～11.15 静岡県立美術館	静岡県立美術館

作家名	作 品 名	出 陳 展 覧 会 名	会 期 ・ 展 示 会 場	貸 出 先
浅井 忠 〃 中西 利雄	沢 入 駅 奈 良 郊 外 曇り日の離宮と駅	「ヨーロッパに学んだ画家たち」展	62.10.3～10.25 長野県信濃美術館	長野県信濃美術館
松尾 敏男	歴 程	現代日本画家による—中国を描く展	62.10.8～10.13 なんば高島屋 62.10.16～11.8 高岡市美術館 63.1.5～1.24 下関市立美術館 63.3.10～3.15 横浜高島屋	読売新聞社
加藤源之助	秋の山(大和初瀬村)	特別展「描かれた大和」	62.10.10～11.8 奈良県立美術館	奈良県立美術館
浅井 忠 〃 〃 〃 松岡 寿	薬 屋 根 京都高等工芸学校の庭 婦 人 像 武士の山狩図制作風景写真(4点) 森 と 小 川	日本洋画の出発展一初期洋画から 歴史画へー	62.10.10～11.15 いわき市立美術館	いわき市立美術館
松尾 敏男	原 野 歴 程	「松尾敏男」展	62.11.26～12.8 新宿・伊勢丹美術館 62.12.10～12.16 名古屋・松坂屋 63.1.28～2.2 心齋橋・大丸 63.2.5～2.21 長崎県立美術博物館 63.3.30～4.10 横浜・そごう美術館	読売新聞社
大須賀 力 〃	も た れ る 椅 子 の 女	市川の作家展シリーズ 大須賀力彫刻展	62.12.2～12.10 市川市文化会館	市川市教育委員会
東山 魁夷	門	「回想の江戸・東京Ⅱ」展	63.1.10～2.14 東京都庭園美術館	東京都庭園美術館

刊行物一覽

名 称	規格	頁数	発行部数	名 称	規格	頁数	発行部数
千葉県立美術館報				特別展「ピカソ展」			
「みる・かたる・つくる」				ポ ス タ ー	B 2	2	1,500
VOL.14 No.1～4(4回)	B 5	6	3,000	図 録	A 4	140	1,000
昭和61年度版				ち ら し	B 5	2	30,000
千葉県立美術館年報	B 5	62	1,000	車内吊ポスター	B 3	2	500
常設 収蔵作品展 目録				企画展「青木滋芳展」			
I 期	B 5	4	1,500	ポ ス タ ー	A 2	2	1,000
II 期	B 5	4	1,000	目 録	B 5	8	5,000
III 期	B 5	2	2,000	企画展「第2回現代日本具			
IV 期	B 5	6	5,000	象彫刻展」ポスター	B 2	2	1,000
特別展「日本の名画100年」				図 録	24×255	94	1,500
ポ ス タ ー	B 2	2	1,500	ち ら し	B 5	2	2,000
図 録	25×24	116	1,000	昭和63年度事業案内	A 4	6	15,000
ち ら し	B 5	2	30,000	房総の美術史			
車内吊ポスター	B 3	2	500	No.43～54(12回)	B 5	4	500

日誌抄

- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------|--|
| 4月1日 | 辞令交付 離着任式
常設収蔵作品展〈第1期〉(5月10日まで) | 10月1日 | 美術館協議会(2) |
| | | 3 | 美術を語る会(5) |
| 5月15日 | 美術館友の会役員会 | 14 | 美術館友の会秋の美術鑑賞の旅 |
| 16 | 特別展「日本の名画100年」(6月21日まで) | 29 | 第11回千葉県移動美術館(印旛村中央公民館, 11月9日まで) |
| 23 | 美術講演会(1) | 29 | 施設ボランティア養成講座(～11月5日、11月12日、11月19日、12月10日、12月15日の6日間) |
| 6月20日 | 美術を語る会(1) | | |
| 7月3日 | 美術館友の会美術鑑賞の旅 | 11月12日 | 第11回千葉県移動美術館(富津市富津公民館, 11月24日まで) |
| 11 | 美術を語る会(2) | 21 | 美術を語る会(6) |
| 11 | 美術館研究員会議(1) | | |
| 20 | 美術館協議会(1) | 12月12日 | 美術を語る会(7) |
| | | 19 | 美術を語る会(8) |
| 8月7日 | 特別展「ピカソ展」(9月6日まで) | | |
| 7 | 企画展「第2回現代日本具象彫刻展」(9月6日まで) | 1月23日 | 美術を語る会(9) |
| 7 | 博物館実習 参加学生28名(8月12日まで) | 30 | 友の会役員会 |
| 11 | 入館者 200万人達成 | 2月5日 | 美術館研究員会議(2) |
| 22 | 美術を語る会(3) | 13 | 美術を語る会(10) |
| 29 | 美術講演会(2) | | |
| | | 3月17日 | 美術館協議会(3) |
| 9月5日 | 美術を語る会(4) | | |
| 12 | 企画展「青木滋芳展」(10月11日まで) | | |
| 16 | 第2次博物館実習 参加学生5名(9月29日まで) | | |



美術館友の会 美術鑑賞の旅

関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 でい酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附 則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

(趣 旨)

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中 略)

別表第一抜粋

財産又は事務の種類	手数料	区 分	単 位	額
博 物 館	入館料	特 別 展 覧 会	1 人 1 回 に つ き	500円 以内

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

(以下省略)

使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

第7条の2（省 略）

別表第六（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者（介護者を含む。）又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

3. 展示室使用料

千葉県教育委員会教育長指令第121号

1. 千葉県立美術館展示室等の使用料については、使用料及び手数料条例第5条第3項の規定により減免することとし、昭和62年4月1日から次表のとりの額とする。

区 分	室 名	面 積	使 用 料 (午前9時から午後5時まで)	
			観覧料無料、 物品を販売しない場合（減 免率3分の2）	観覧料有料、 物品を販売する場合（減 免率3分の1）
展 示 棟	第一展示室	438㎡	5,900円	11,700円
	第二展示室	400㎡	5,400円	10,700円
	第三展示室	469㎡	6,300円	12,600円
	第四展示室	403㎡	5,500円	11,000円
	第五展示室	824㎡	11,000円	22,000円
	第六展示室	330㎡	4,500円	9,000円
	第七展示室	567㎡	7,600円	15,200円
県 民 館	全 展 示 室	3,431㎡	45,900円	91,700円
	講 堂	259㎡	4,500円	9,000円
アトリウム棟	研 修 室	75㎡	1,500円	3,000円

ただし、県及び県教育委員会が共催する場合並びに国又は他の地方公共団体の主催若しくは共催する行事に係る使用の場合は無料とし、県教育委員会が特に教育的、文化的意義を認め後援する行事に係る使用の場合は上記の半額とする。

2. 千葉県立美術館展示室等の使用の許可に関する取扱いは、別紙「千葉県立美術館展示室等の使用許可に関する取扱要綱」によるものとする。

（別紙 要綱は本紙省略）

●千葉県立美術館友の会会則

（名 称）

第1条 本会は、千葉県立美術館友の会という。（略称、葉美会）

（事務所）

第2条 本会は、事務局を千葉県立美術館内におく。

（目 的）

第3条 本会は、千葉県立美術館（以下「館」という。）の活動に協力し、楽しいふんい気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深めることを目的とする。

（事 業）

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業をおこなう。

- 1 館の展覧会の見学鑑賞
- 2 講演会、講習会、研究会等
- 3 館外見学会
- 4 機関紙等の編集刊行
- 5 その他目的達成に必要な事業

（会 員）

第5条 本会は、会の目的に賛同するものをもって組織する。

1. 会員には次の特典がある。

- ① 館の主催又は共催による展覧会観覧の優待
- ② 美術館報「みる・かたる・つくる」ならびに友の会機関紙の配布
- ③ 本会発行の図録等の配布及び割引購入
- ④ 本会事業への参加

2. 本会活動に協力し、賛助会費を納めたものは賛助会員とする。

（会員の加入・退会）

第6条 本会に加入する場合は申込書に年会費を添えて事務局に提出するか、郵便振替にて申し込み、会員証の交付を受ける。退会の際は退会届を提出する。

（役 員）

第7条 本会に次の役員をおく。

会長1名 副会長3名（ただし内1名は美術館長があたる）

理事若干名 事務局長1名 監事3名 評議員若干名

1. 会長・副会長・理事・事務局長・監事の選出は評議員会において推挙する。

2. 役員の任期は2年とする。ただし再任は防げない。

（役員等の任務）

第8条 本会の役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表して会務を総理し、会議を召集し、その議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。
3. 理事は会の運営にあたる。
4. 事務局長は会務を処理する。
5. 監事は本会会計の監査をする。

（顧問・名誉会員）

第9条 この会に顧問及び名誉会員をおくことができる。名誉会員は評議員会で推挙する。

（支 部）

第10条 地域、並びに職域ごとに20名以上の会員を有する場合は支部をおく。

（評議員会）

第11条 各支部より20名につき1名の制で推せんされた代表と賛助会員及び講座代表をもって評議員会を構成する。評議員会は毎年1回以上開き、事業計画、予算、役員の決定その他の重要方針を決議する。

（会 費）

第12条 本会の会費は次の通りとする。

1. 普通会員 上半期入会（4月～9月）2,000円
下半期入会（10月～12月）1,000円

（経 費）

第13条 本会の経費は会費、寄附金、事業収益金、その他の収入をもってあてる。

（会計年度）

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。

（職 員）

第15条 本会の事務職員は館に勤務する者以外から、会長が委嘱する。

（付 則）

1. 本会の会則は評議員会で出席者の過半数の同意を得なければ変更することができない。

2. 本会則は昭和50年6月28日より施行する。

- 昭和51年5月29日一部改正
- 昭和52年4月21日一部改正
- 昭和53年4月22日一部改正
- 昭和54年4月28日一部改正
- 昭和56年4月28日一部改正
- 昭和59年4月23日一部改正
- 昭和60年10月14日一部改正

昭和63年度展覧会

特別企画展

デュフィ展

—光と色彩のシンフォニー—

5月14日(土)～6月19日(日)

ラウル・デュフィ(1877～1953)は、フランスの代表的な画家。初め印象派風であったが、フォーヴィスムの運動に参加し、形態の単純化と装飾的な色彩構成に加え、軽快で自由な表現を展開し、独自の画風をつくりました。

本展では、近代絵画史上に大きな業績を残したデュフィの油彩、水彩、素描等を海外の美術館、所蔵家の協力を得て展覧します。

石井柏亭と近代絵画の歩み

9月10日(土)～10月16日(日)

本県ゆかりの石井柏亭(1882～1958)は、浅井忠に師事し、健康な写實的作風で知られる洋画家です。芸術環境に恵まれた家系に育ち、後に、日本水彩画会、二科会、一水会を組織し、その運営の中心として活躍しました。本展では、柏亭を中心に、特に関係の深い作家の作品を加え、柏亭の画業と近代絵画の歩みを回顧します。

昭和63年度職員

館長	藤川 昶
副館長	金親 道生
庶務課	
課長	高石 卓
副主査	加藤 貞美治
主事	渡辺 和子
"	豊田 浩昌
主任運転手	篠原 恒雄
主任用務員	長島 則子
学芸課	
学芸課長	中村 哲
研究員	中地 昭男

企画展

常設 収蔵作品展

I 6月28日(火)～9月4日(日)

II 12月13日(火)～3月31日(金)

本館が所蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書版画の作品を2期にわけて順次展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。

房総の美術家シリーズ (18)

笹岡了一展

2月14日(火)～3月12日(日)

笹岡了一(1907～1987)は、新潟県新津市出身で戦後妻の郷里の本県流山市に住み、光風会、日展を主舞台に活躍した洋画家です。

本県にあっては、千葉県美術会の会長をつとめ県の文化功労者でもあります。本展では、本県はもとより近代日本の洋画界発展に貢献した笹岡了一の代表的作品を展覧し、その画業を回顧します。

第3回現代日本具象彫刻展

2月4日(土)～2月26日(日)

県立青葉の森公園の彫刻広場に設置する作品を全国公募し、その入賞作品及び入選作品を展覧します。

第12回千葉県移動美術館

館山市コミュニティセンター

11月17日(木)～11月30日(木)

袖ヶ浦町立根形公民館

12月3日(土)～12月14日(木)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため、本館所蔵作品を中心とした展覧会を2会場で開催します。

研究員	鈴木 喜久夫
事業班	
学芸員	米田 耕司
"	大久保 守
"	藤川 正司
技師	小泉 幸代
普及班	
研究員	池田 伊子
"	田坂 浩
技師	金田 雅成
"	相川 順子

利用案内

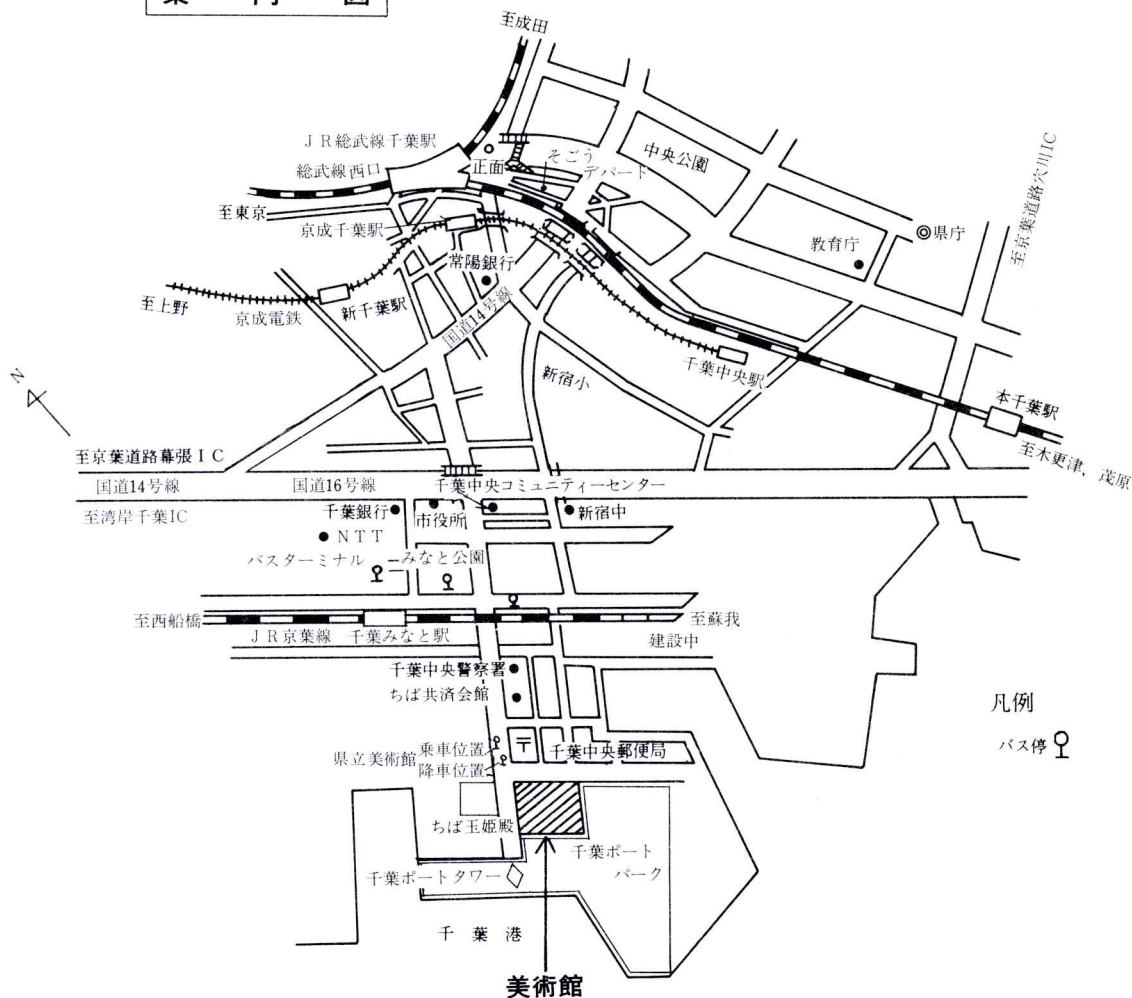
開館時間

- 開館時間** 午前9時より午後4時30分まで
- 休館日**
- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 - ・年末年始（12月26日～1月4日）
 - ・展示替え等のため、必要があるとき。
- 入館料**
- ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧**
- ・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡いただければ館の概要や作品等の解説をいたします。

交通

- ★ J R 総武線千葉駅下車
 - 徒歩23分。
 - バス⑨番(千葉そごう前)のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分、「県立美術館」下車、徒歩1分。
- ★ J R 京葉線千葉みなと駅下車、徒歩8分。

案内図



みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報（昭和62年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央港1-10-1

TEL 0472（42）8311（代表）

印刷 有限会社 正文社

